

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
①農業研究部 (計52件)						
1486	農業研究部	<p>【オオバのアザミウマ類に関する試験結果等を紹介しました】 (2023. 3. 27発信)</p> <p>JAおおいた主催のオオバ生産者講習会が開催され、オオバ生産部会員、JA全農おおいた、大分市及び県の関係者18名が参加し、害虫防除に関する情報交換を行いました。当チームからは、令和4年度に実施したアザミウマ類の発生実態調査や薬剤の感受性検定の結果等を紹介しました。</p>	 <p>オオバ生産者講習会 (JAおおいた 会議室)</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2023.4.30
1481	農業研究部	<p>【TSWV抵抗性ピーマン「TSRさらら」の栽培試験を開始】 (2023. 3. 14発信)</p> <p>当チームではTSWVが原因ウイルスである黄化えそ病対策として普及しつつある品種「TSRさらら」の増収技術の開発に取り組んでいます。3月10日に定植を行い、いよいよ今シーズンの試験栽培が始まりました。今後は、果実を多く確保する整枝や施肥方法、草勢の強い台木の利用により増収させる技術について検討する予定です。</p>	 <p>ピーマンの定植</p>	農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2023.3.31
1479	農業研究部	<p>【農事研修会で水稲と果樹のカメムシ防除、ドローンによる防除を紹介しました】 (2023. 3. 9発信)</p> <p>大分県肥料商業組合と大分県農薬販売協同組合の共催による研修会がホルトホール大分で開催され、会員及び肥料・農薬メーカーが40名参加しました。</p> <p>当チームは、水稲・果樹の害虫であるカメムシ類の発生状況や防除対策を説明し、近年導入が進んでいるドローンについて、水稲のトビイロウンカを対象に実施した防除効果試験の事例を紹介しました。</p>	 <p>病害虫対策チームの講演</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2023.3.31
1478	農業研究部	<p>【イチゴの環境制御による病害虫対策試験を実施しています】 (2023. 3. 9発信)</p> <p>イチゴの主要病害である灰色かび病は過湿条件で発生しやすいため、送風機器を用いてハウス内湿度を制御し抑制できないか検討しています。また、乾燥条件で多発するハダニへの影響についても調査しています。定期的に病害虫の発生状況調査を行い、ハウス内の温湿度等との関係を分析していきます。</p>	 <p>病害虫発生状況調査</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2023.3.31
1476	農業研究部	<p>【土壌ECセンサを用いたピーマンの栽培試験を開始】 (2023. 3. 7発信)</p> <p>当チームではスティック状のセンサを用い、栽培中の作物の根域の土壌EC値(肥料濃度の指標)を正確に把握する手法を開発中です。今後この手法を用いて、各種野菜の土壌EC値の推移を調査し、収量・品質を最大化するための施肥管理方法を明らかにしていきます。現在ピーマンのセルトレイ苗をポットに移植(鉢上げ)しており、4月の定植後にセンサを設置し試験を開始します。</p>	 <p>ピーマン苗の鉢上げ</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.3.31
1469	農業研究部	<p>【病害虫対策の研修をリモートで配信！】 (2023. 2. 22発信)</p> <p>県認定研修機関における就農研修生の病害虫及びGAPIに関する知識習得を図るため、新規就業・経営体支援課、広域普及指導員(安全農業担当)と共に研修を実施しました。当チームからは病害虫が発生しやすい条件や被害が広がる原因、効果的な対策を紹介しました。研修は当部会議室からリモートで各会場へ配信し、研修生など約40名が参加しました。</p>	 <p>病害虫対策の研修</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2023.3.31

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1467	農業研究部	<p>【イチゴの育種試験を実施中！】 (2023. 2. 21発信)</p> <p>当チームでは、イチゴの優良品種を効率的に育成するため、交配組み合わせの選定やDNAマーカー(個体特有の形質に対応した目印)の開発を行っています。</p> <p>今回は当部の試験ハウスで試験品種の果実の味、色、硬さ等の特徴を調査しました。また、大分県立農業大学の学生も参加し、育種技術や調査の方法について研修を行いました。</p>	 <p>イチゴ試験ハウス</p> 	農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2023.3.31
1457	農業研究部	<p>【高品質なニンニク生産のための研究を進めています】 (2023. 2. 2発信)</p> <p>当チームでは、県内のニンニク産地で問題となっているスポンジ球等の異常球発生を抑制する技術について研究しています。当部内ハウスと露地ほ場における試験では、肥料の種類や施肥方法、低温処理(マルチ被覆期間の短縮)が花芽分化に与える影響を調査しています。今回は葉鞘径を計測し、生育状況を調査しました。</p>	 <p>ニンニクの葉鞘径を計</p>	農業研究部 葉根菜類・茶葉チーム	0974-28-2082	2023.2.28
1456	農業研究部	<p>【ドローン空撮画像の活用に関する研修を開催】 (2023. 1. 31発信)</p> <p>当チームではドローンを活用した露地野菜の生育診断技術等の研究に取り組んでおり、今回は普及指導員を対象に研修を開催しました。研修ではドローンの飛行に関する法令や機体の取扱い等の解説、ソフトウェアによる空撮画像解析の実演を行いました。今後も関係機関と研究成果等を共有し、産地の課題解決を図っていきます。</p>	 <p>ドローンの取扱い研修</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.2.28
1454	農業研究部	<p>【イチゴの研修を実施しました】 (2023. 1. 30発信)</p> <p>農協職員の営農指導に必要な知識・技術習得のため、JA大分中央会と大分県が連携して研修を開催しています。今回は農業研究部の研究員が講師として、イチゴの食味調査実習および栽培管理に関する座学を実施しました。また、座学には大分県立農業大学の学生もプロジェクト活動の参考のために参加しました。</p>	 <p>イチゴの栽培管理に関する座学</p>	農業研究部 企画指導担当	0974-22-0671	2023.2.28
1453	農業研究部	<p>【野菜の試験研究に関する検討会に参加しました】 (2023. 1. 30発信)</p> <p>九州沖縄農業試験研究推進会議の野菜成績設計検討会がオンラインで開催され、各県の研究機関等から約130名が参加しました。農業研究部からはイチゴ・ピーマン・根深ネギの試験結果、トマトの新規試験計画を発表しました。会議で得られた情報を活用して、今後の試験研究に取り組んでいきます。</p>	 <p>成績設計検討会(野菜&総合)</p>	農業研究部 企画指導担当	0974-22-0671	2023.2.28
1436	農業研究部	<p>【イチゴの収穫調査を実施しました】 (2022. 12. 19発信)</p> <p>当チームでは、ベリーツ(大分6号)の生産性向上に向けた栽培技術の改善や優良品種の育成に関する研究に取り組んでいます。今回は試験場内ハウスで栽培試験中であるイチゴの果実の糖度や硬度等を調査しました。今後も収穫調査を実施するとともに、ハウス内の環境条件等を分析し、収量・品質の向上に繋げていきます。</p>	 <p>果実の品質調査</p>	農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2023.1.31
1432	農業研究部	<p>【防除指導指針と病害虫発生状況を報告しました】 (2022. 12. 14発信)</p> <p>病害虫防除・雑草対策及び土壌・施肥管理技術等に関する農業関係者の資質向上を図るため、大分県肥料植物防疫協会と地域農業振興課が主催する施肥防除対策研修会が開催されました。当チームは、大分県の主要農作物の病害虫及び雑草防除指導指針の改訂、本年度の病害虫発生状況について報告しました。</p>	 <p>施肥防除対策研修会(るるパーク大研修室)</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.12.28

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1431	農業研究部	<p>【茶の生産技術研修を実施しました】 (2022. 12. 12発信)</p> <p>ドリンク茶生産法人の生産技術向上を目的とした研修を東部振興局とともに実施し、杵築市の生産者5名が参加しました。研修では、栽培管理や摘採適期の判断手法等に関する研究成果や場内ほ場における試験状況を紹介しました。また、生産者が持ち込んだ茶葉のサンプルについて、香りや味等の品質評価を行いました。</p>	 <p>茶葉の品質評価</p>	農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2022.12.28
1429	農業研究部	<p>【イチゴ萎黄病の対策について検討しました】 (2022. 12. 7発信)</p> <p>臼杵市の生産者を対象としたイチゴ萎黄病対策研修会を普及指導員とともに実施しました。その中で、ウイルスフリー処理による苗更新と二段階育苗の取り組みによる優良事例、及び防除効果が不十分な事例について意見交換を行いました。また、育苗中に病原菌の侵入を防ぐため、乾燥による根傷みを起さないようなかん水の重要性を確認する等、効果的な防除対策を検討しました。</p>	 <p>イチゴ萎黄病対策研修 (臼杵市生産者ほ場)</p>  <p>萎黄病による小型葉症状 (病害虫対策チーム原因)</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.12.28
1420	農業研究部	<p>【鐵鋼スラグに関する研究状況を紹介しました】 (2022. 11. 22発信)</p> <p>鐵鋼スラグは、鋼を製造する過程で副成される資材で、農業では土壌改良等に使用されています。この度、農業研究部にて鐵鋼スラグ協会が主催する肥料ワーキングの勉強会が開催され、関係者との情報交換を行いました。当チームからは、ほ場へのスラグの省力的な散布方法、サトイモやショウガの栽培におけるスラグの効果等について紹介しました。</p>	 <p>ショウガ試験ほ場</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2022.12.28
1415	農業研究部	<p>【ピーマンの赤変の早期判別検証の実施！】 (2022. 11. 17発信)</p> <p>ピーマンは成熟すると赤くなり、商品価値が低下するため、選果場での調製作業で赤くなりかけている果実を除去しています。それでも、流通段階で果実の赤変が発生しています。そこで、多波長画像を撮影できるマルチスペクトルカメラを活用して、赤変の過程を撮影し、赤変に伴う反射光の特徴について画像解析を行い、早期判別の検証を実施しました。</p>	 <p>撮影画像</p>	農業研究部 土壌・環境チーム 果菜類チーム	土壌・環境: 0974-28-2072 果菜類: 0974-28-2081	2022.12.28
1412	農業研究部	<p>【カンショの糖度調査を実施しました】 (2022. 11. 14発信)</p> <p>当チームでは、カンショの栽培面積拡大及び安定生産を図るため、ウイルスフリー苗を供給するとともに、効率的な苗の増殖技術を研究しています。現在、試験場内で糖度調査が行われており、出荷基準をクリアしたほ場のものが「甘太くん」(JA全農おいたの商標登録)として出荷されます。</p>	 <p>糖度調査</p>	農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2022.11.30
1411	農業研究部	<p>【ピーマンの病害虫対策について講習しました】 (2022. 11. 14発信)</p> <p>当チームは、研究成果や現地調査等に基づいた病害虫の発生状況及び防除技術に関する情報提供を行っています。今回は臼杵市アグリ起業学校の病害虫対策講習会が開催され、ピーマンの研修生や若手生産者等15名が参加しました。その中で、病害虫の被害の特徴や発生しやすい条件、効果的な防除方法等を紹介しました。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.11.30
1410	農業研究部	<p>【白ネギのドローン防除の試験結果を報告しました】 (2022. 11. 14発信)</p> <p>豊肥振興局主催の研修会が開催され、管内の白ネギ生産者等約40名が参加しました。当チームからは、白ネギのドローン防除における農業の葉への付着量や周囲への飛散(ドリフト)、手散布との防除効果の比較、飛行の風圧による葉折れ等に関する試験結果を紹介しました。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.11.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1408	農業研究部	<p>【ニンニクの栽培試験を開始しました】 (2022. 11. 7発信)</p> <p>県内のニンニク栽培では、使用される輸入種球の品質の不安定性や異常球の発生が問題となっています。そこで、異常球の発生が少ない優良系統の選抜や自家採種方法等について検討しています。</p> <p>今回は、当チームが自家採種した種球および購入した輸入種球を定植(10月27日)しました。今後は生育やとう立ちの早さを調査していきます。</p>	 <p>ニンニク定植(農業研究部ほ場)</p>	農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2022.11.30
1407	農業研究部	<p>【土壌肥料・病害虫の研究状況を紹介しました】 (2022. 11. 2発信)</p> <p>SDGsへの関心が高まる中、化学肥料や化学合成農薬の使用を低減する技術等が求められています。そこで、大分県肥料植物防疫協会と地域農業振興課が主催する「土壌肥料・病害虫に関する研修会」が開催され、協会会員等約40名(Web含む)が参加し、情報共有を行いました。</p> <p>農業研究部からは、マルチコブターによる生育診断や防除技術、土壌水分・EC(肥料濃度の指標)測定技術、天敵を活用した防除技術等に関する研究状況を紹介しました。</p>	 <p>研修会(農業研究部会議室)</p>	農業研究部 企画指導担当	0974-22-0671	2022.11.30
1388	農業研究部	<p>【イチゴの栽培試験を開始しました】 (2022. 10. 3発信)</p> <p>「ベリーツ(大分6号)」における奇形果の発生低減のため、ハウス内の温度及び炭酸ガス濃度の適正な管理技術の確立に取り組んでいます。加えて、省力栽培が可能な品種等の育成・選抜を行っています。</p> <p>今回は試験用苗の定植(9月16日・20日)を行い、今後はハウス内の栽培環境及び生育状況、収量・品質等を調査していきます。</p>	 <p>イチゴの定植(場内ハウス)</p>	農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2022.10.30
1380	農業研究部	<p>【水田畑地化圃場で有機物を用いて土壌改良する試験をしています】 (2022. 9. 20発信)</p> <p>水田畑地化圃場の土壌物理性改善効果を検証するため、2020年に水田農業グループの水田に、もみがらや杉パルクなどを大量(10~50m³/10a)にすき込みました。今年もキャベツを定植して、土壌水分の推移や生育・収量の調査を行っていきます。</p> <p>さらに今年度からは、国東市安岐町でも同様にキャベツの現地栽培試験を開始しました。</p>	 <p>水田農業グループ圃場</p>  <p>現地圃場</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2022.10.30
1379	農業研究部	<p>【白ネギ新規生産者等に主要病害虫の対策を講習しました】 (2022. 9. 15発信)</p> <p>白ネギの軟腐病・白絹病は、高温多湿条件下で発生しやすく、予防を中心とした対策が重要です。今回は豊後高田市で開催された大分白ねぎ連絡協議会「担い手部会」技術研修会で、効果的な薬剤の種類や散布方法等を紹介し、防除の徹底を呼びかけました。</p> <p>加えて、8月9日に豊後大野市大野町で実施した白ネギドローン防除研修会における防除試験の結果を一部紹介しました。</p>	 <p>「担い手部会」技術研修会</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.10.30
1378	農業研究部	<p>【研修会でイチゴ土壌病害に対する農薬の防除効果を紹介】 (2022. 9. 13発信)</p> <p>スマート農業によるベリーツの生産力向上を目指し、大分県スマート農業推進協議会主催の「環境制御技術研修会」が9月8日は中津市・宇佐市、9月9日は臼杵市で開催されました。(株)デルフィージャパンによる現地圃場等での講義が行われ、生産者など約30名が参加しました。</p> <p>当チームからは、イチゴ萎黄病と炭疽病に対するベンレート水和剤の防除効果や耐性菌リスクについて、薬剤感受性検定結果や知見等を紹介しました。</p>	 <p>環境制御技術研修会</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.9.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1372	農業研究部	<p>【新型白ネギ皮むき機の実演をしました】 (2022.9.2発信)</p> <p>白ネギ生産では、収穫後に不要な葉を取る皮むき作業に労力がかかることが、栽培面積の拡大を制限する要因の一つとなっています。そこで、当チームはメーカーが開発中の皮むき機の性能の検証等に、広域普及指導員とともに協力しています。今回は大分白ねぎ連絡協議会「担い手部会」を対象に皮むき機の実演会を開催し(約30名参加)、実用化に向けた意見交換を行いました。</p>	 <p>皮むき機の実演会</p>	農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2022.9.30
1371	農業研究部	<p>【白ネギ新規生産者等に主要病害の対策を講習しました】 (2022.9.2発信)</p> <p>白ネギの軟腐病・白絹病は、高温多湿条件で発生しやすく、予防を中心とした対策が重要です。今回は大分白ねぎ連絡協議会「担い手部会」技術研修会で、効果的な薬剤の種類や散布方法等を紹介し、防除の徹底を呼びかけました。加えて、8月9日に豊後大野市大野町で実施した「白ネギドローン防除研修会」で行ったドローン防除試験の結果を一部紹介しました。</p>	 <p>「担い手部会」技術研修会</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.9.30
1365	農業研究部	<p>【防除技術について農林水産省と情報交換を行いました】 (2022.8.29発信)</p> <p>IPM※及びドローン防除技術の開発状況を視察するため、農林水産省職員が来場されました。当チームからは、イチゴ、トマト、オオパに対するIPM防除技術の開発および普及状況や、ドローンによる白ネギ防除試験結果を説明し、トマトやオオパの天敵防除試験圃場を紹介しました。</p> <p>※IPM：化学農薬のみに頼らず、耕種的・生物的・物理的な方法も組み合わせて総合的に防除する技術。化学農薬が効かなくなった害虫の防除対策や人や環境へのリスクを抑える防除手段として有効。</p>	 <p>オオパ天敵防除試験圃場の視察風景</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.9.30
1364	農業研究部	<p>【研修会でトマト黄化症状の診断結果を紹介】 (2022.8.29発信)</p> <p>スマート農業による大分県産トマトの生産力向上を目指し、大分県スマート農業推進協議会主催の「環境制御技術研修会」が開催されました。(株)デルフィージャパンによる現地圃場および室内での講義が行われ、トマト生産者など約30名が参加しました。当チームからは、最近大玉トマトで問題となっている葉の黄化症状について、診断結果を紹介しました。</p>	 <p>環境制御技術研修会</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.9.30
1363	農業研究部	<p>【土壌の肥料成分データのリアルタイム取得試験を開始！】 (2022.8.26発信)</p> <p>植物が吸収できる土壌中の肥料成分量をリアルタイムに把握しながら肥培管理を行えば、収量や品質を大きく向上させることが可能です。今回は、肥料の種類や量の差が土壌EC値(肥料濃度の指標)にどのように影響するか、リアルタイムデータを取得する試験を開始しました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2022.9.30
1358	農業研究部	<p>【トマトの裂果対策試験を実施中です】 (2022.8.19発信)</p> <p>県内の夏秋トマト栽培では、夏期の高湿・強日射による裂果が問題となっています。そこで、裂果を抑えて高収量を確保するため、適正な施肥量とかん水量を明らかにする試験に取り組んでいます。今回は茎の長さや太さ等を計測し、生育状況を調査しました。</p> <p>今後も土壌の養分・水分量と生育の推移や果実の収量等を調査していきます。</p>	 	農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2022.9.30
1353	農業研究部	<p>【白ネギのドローン防除について講習しました】 (2022.8.17発信)</p> <p>豊後大野市大野町で豊肥振興局主催の白ネギドローン防除研修会が開催され、生産者・JA・市・県から約40名が参加しました。</p> <p>当日は、室内研修に加え、現地ほ場でドローン防除も実演され、当チームからは、ドローンの運航規則や防除効果の試験結果及び登録農薬等について紹介しました。今後も関係機関と協力して、効果的なドローン防除技術を検討し、講習会等で普及に取り組みます。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.9.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1349	農業研究部	<p>【研修会でイチゴの病害虫対策に関する研究成果を紹介】 (2022. 8. 8発信)</p> <p>大分県産イチゴの生産力向上と環境負荷低減を図るため、県とJAおおいたが主催で「イチゴIPM技術[※]研修会」を開催し、生産者や資材メーカー等と情報共有を行いました。当チームからは、天敵製剤の活用を中心とした病害虫防除に関する研究の成果や今後の課題等を紹介しました。</p> <p>※IPM技術とは・・・ 化学農薬のみに頼らず、耕種的・生物的・物理的な方法も組み合わせて総合的に防除する技術。化学農薬が効かなくなった害虫の防除対策や人や環境へのリスクを抑える防除手段として有効。</p>	 <p>イチゴIPM技術研修会</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.8.30
1335	農業研究部	<p>【イチゴ栽培講習会で病害虫防除指導を行いました】 (2022. 7. 20発信)</p> <p>南部振興局主催で佐伯菰部会の栽培講習会が開催され、部会員24名が参加しました。当チームは、炭疽病の感染リスクや農薬のローテーション防除、展着剤の活用等を指導しました。参加者からも積極的に発言があり、活発な意見交換が行われました。また、灰色かび病対策に関する現地試験の要望があり、新規課題における今秋からの取り組みについて紹介しました。</p>	 <p>イチゴ栽培講習会</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.8.30
1332	農業研究部	<p>【茶の品評会で審査を行いました】 (2022. 7. 19発信)</p> <p>第54回大分県茶品評会が開催され、県庁及び当部の職員が審査を行いました。県内産茶8品種31点について、茶葉の形・つや等を確認した後、お湯を注いで色・香り・味を評価しました。昨年よりも品種が多く、バラエティに富んだ内容となりました。当チームでは今回のような活動や試験研究を通じて、茶の品質向上に取り組んでいます。</p>	 <p>茶の香りの審査</p>	農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2022.8.30
1322	農業研究部	<p>【ドローンによる肥料散布試験を実施！】 (2022. 7. 1発信)</p> <p>当チームと水田農業グループは、ドローンメーカー及び肥料メーカーと共同でドローンを活用した施肥技術の研究に取り組んでいます。本試験では、散布の均一性を検証するため、地点ごとの散布量を計測しました。今後は、水稻栽培において、ドローンによる追肥散布が生育に与える影響や経済性について試験を行っていきます。</p>	 <p>ドローン肥料散布試験</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2022.7.30
1312	農業研究部	<p>【スナップエンドウの土壌断面調査研修を実施しました】 (2022. 6. 15発信)</p> <p>杵築市を中心にスナップエンドウの生産者が増加しており、当チームでは収量向上に向けた研究に取り組んでいます。本研修は、生産者や普及指導員を対象に、新規就農者と高収益生産者の栽培終了後のほ場で、土壌の硬度や排水性の調査を行い、土づくりやかん水・施肥管理の指導を行いました。</p>	 <p>土壌断面調査研修</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2022.7.30
1305	農業研究部	<p>【ピーマン黄化えそ病の防除を指導しました】 (2022. 6. 3発信)</p> <p>ピーマン黄化えそ病はアザミウマ類が媒介するウイルス病で、各産地で問題となっています。5/26～31に中部振興局及びJAおおいた南部事業部による講習会が8地区で開催され、野津町ピーマン部会員約140名が参加しました。</p> <p>病害虫対策チームは4地区で参加し、症状の見分け方、風向や地形に応じた防虫ネットの展帳、防草シート設置、感染株の処分等による防除対策を指導しました。</p>	 <p>ピーマン黄化えそ病対策講習会(野津)</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.6.30
1304	農業研究部	<p>【ドリンク茶の二番茶期における防除試験を開始！】 (2022. 6. 1発信)</p> <p>ドリンク茶の二番茶期は、気象条件等により薬剤による適期の病害虫防除が難しく、品質低下が問題となっています。そこで、被害葉や害虫を除去する「サイクロン式吸引洗浄装置」を用いた、物理的防除技術を検討しています。今後、病害虫発生状況調査し、慣行防除との比較を行っていきます。</p>	 <p>サイクロン式吸引洗浄装置の試験運転(農業研究部ほ場)</p>	農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2022.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1298	農業研究部	<p>【ニンニク系統選抜試験の収穫調査をしました！】 (2022. 5. 27発信)</p> <p>ニンニクの収穫調査を研究員と普及指導員で行いました。各産地から採種し、常温保存および冷蔵処理した種球を試験ほ場で栽培し、スポンジ球等の発生を調査しました。その後、二次成長（萌芽）や裂球の有無を確認し、種球の最大径と重量を計測しました。今後は、引き続き優良系統の選抜と種球の適正な貯蔵方法を検討していきます。</p>	 <p>スポンジ球の有無を調査</p>	農業研究部 葉根菜類・茶葉チーム	0974-28-2082	2022.6.30
1290	農業研究部	<p>【土壌水分・ECセンサを活用した試験を始めました！】 (2022. 5. 18発信)</p> <p>野菜の収量・品質を最大化するには、正確な土壌水分・EC値（肥料濃度の指標）をリアルタイムに把握しながら、精密なかん水・施肥管理を行う必要があります。そこで、栽培する野菜ごとに適正なセンサ数や設置場所を検討するため、今回はピーマンを栽培中の畝に複数のセンサを設置し、土壌水分・ECのデータを解析していきます。</p>	 <p>センサの設置</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2022.5.31
1289	農業研究部	<p>【トマトの裂果対策試験を開始しました！】 (2022. 5. 16発信)</p> <p>県内の夏秋トマト栽培では、夏期の高温や強日射等による裂果が問題となっています。そこで、①日射量に応じた自動かん水方法、②赤外線カット資材の効果、③裂果に強い品種について検討しています。トマトの苗を5月11日に定植し、ハウス内の温湿度等の環境条件と生育や果実の収量・品質を調査します。</p>	 <p>トマト苗の定植</p>	農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2022.5.31
1288	農業研究部	<p>【ドローンの薬剤散布試験を実施しました！】 (2022. 5. 16発信)</p> <p>「ねぎ100億円プロジェクト」による産地拡大を支援するため、最近登録農薬が増えてきたドローンによる省力的な防除技術の検討を行っています。本試験では、農業大学の協力の下、白ねぎにドローンで農薬を散布し、葉への付着具合等を確認しました。今後は病害の発生状況を調査し、動力噴霧機による防除効果と比較検証します。</p>	 <p>ドローンによる農薬散布</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.5.31
1286	農業研究部	<p>【マルチコプターを活用した白ねぎの生育診断技術の試験を開始】 (2022. 5. 13発信)</p> <p>県内の露地野菜栽培では、野菜の生育状況の確認に多大な労力がかかっています。そこで、当チームではマルチコプター（ドローン）を活用した省力的な生育診断技術を開発しています。試験場内のほ場に白ねぎを定植（5月10日）し、今後は栽培中にマルチコプターで空撮した画像から収穫適期や収量を予測する技術を検討します。</p>	 <p>試験用の白ねぎを定植</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2022.5.31
1284	農業研究部	<p>【無人航空機を用いた病害虫防除のポイントを講習】 (2022. 5. 11発信)</p> <p>無人航空機（ドローン等の航空法上の名称）は、農作業の省力化に向けた活用が広がっています。この度、県は無人航空機の安全使用研修を開催し、農家や農協及び航空機メーカー等と情報共有を行いました。その中で、トビイロウンカ（水稲害虫）の防除方法と野菜栽培におけるドローン防除の現状について、研究員が講演を行いました。</p>	 <p>無人航空機 安全使用研修会</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.5.31
1280	農業研究部	<p>【ニンニクの系統選抜を実施中】 (2022. 4. 28発信)</p> <p>大分県のニンニク産地では、輸入した種球（種ニンニク）を用います。近年、暖冬の影響でスポンジ球が多発しており、収量低下の主要因となっています。そこで、当チームで栽培中のニンニクの葉鞘径や抽だい率などを調査し、県内の栽培に適した系統（ニンニクの種類）について検討しています。</p>	 <p>ニンニクの葉鞘径を計測</p>	農業研究部 葉根菜類・茶葉チーム	0974-28-2082	2022.5.31
1277	農業研究部	<p>【イチゴの収穫調査をしました】 (2022. 4. 25発信)</p> <p>果菜類チームでは、収量・品質の向上や栽培管理を省力化できるイチゴ品種の育成に取り組んでいます。そのため、収穫した果実の大きさや重さ、形や糖度等を調査することで、優良母本（育種の親）となる品種の選定を行っています。</p>	 <p>果実の重量等を計測</p>	農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2022.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1276	農業研究部	<p>【生育中の一番茶をドローンで撮影しました】 (2022. 4. 25発信)</p> <p>茶の芽は春になると休眠打破して、一気に新芽が生育を開始します。その開始基準となる萌芽日をドローンで撮影した画像から判定する手法を検討し、萌芽日からの積算気温等により収穫適期を予測するなど効率的な栽培管理技術の開発に取り組んでいます。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2022.5.31
1275	農業研究部	<p>【白ねぎの黒腐菌核病の発生状況調査を実施】 (2022. 4. 25発信)</p> <p>黒腐菌核病はネギ等に発生する土壌伝染性病害で、関東の黒ボク土壌地域を中心に被害が問題となっています。大分県内においても本病害の拡大が懸念されており、当チームでは現地の白ねぎほ場における本病害の発生状況を把握し、有効な防除対策技術を検討しています。</p>	 <p>病害の発生状況を調査</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.5.31
1273	農業研究部	<p>【転炉スラグを用いたショウガの栽培試験を開始】 (2022. 4. 22発信)</p> <p>転炉スラグとは鋼を製造する過程で副成される資材で、農業では土壌改良等に使用されています。また、本県では参入企業を中心に加工業務用野菜の産地育成を図っています。そこで、土壌・環境チームでは転炉スラグを用いた土壌pH矯正によるショウガ等の増収効果を検証しています。</p>	 <p>ショウガの定植</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2022.5.31
1272	農業研究部	<p>【トマトキバガの防除対策を呼びかけました】 (2022. 4. 15発信)</p> <p>トマトキバガは、トマト等の葉や果実を食害する害虫で、佐賀県を除く九州各県で成虫が確認されています。そこで、病害虫対策チームは現地及び試験場内で侵入警戒調査を行っており、テレビ取材を通じて防除対策の注意喚起を行いました。</p>	 <p>試験場内にて</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2022.5.15

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
②水田農業グループ (計24件)						
1462	水田農業グループ	<p>【麦生育期間中の堆肥散布効果を検証中(連用7年目)】 (2023. 2. 10発信)</p> <p>当グループでは水田の地力回復のため、生育中の麦の上から堆肥を散布する技術を開発しました。堆肥は散布することで地力の向上や作物の収量向上といった効果が見込まれます。また、連用することで更なる効果の向上が期待されるため、引き続き試験を実施し、効果の検証を行います。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2023.2.28
1435	水田農業グループ	<p>【水稻新品種「なつほのか」の推進研修会が開催されました】 (2022. 12. 16発信)</p> <p>今年度から本格導入している水稻新品種「なつほのか」のさらなる普及拡大を図るため、日田市の生産者を対象に技術向上研修会が開催されました。</p> <p>当グループから品種の特性や栽培のポイントを説明しましたが、皆さん熱心に受講され、大変有意義な研修会となりました。そのあとの参加者との意見交換では、新品種についての多数の質問が出るなど関心の高さがうかがえました。研修の最後には、なつほのかとヒノヒカリの試食会が行われましたが、実際に食べてみるとなつほのかの方がおいしいといった評価も多く、作付拡大に向け充実した研修会となりました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.12.28
1425	水田農業グループ	<p>【水稻の食味官能試験を行っています！】 (2022. 11. 30発信)</p> <p>水稻の品種選定にあたっては、収量、品質に加え、食味を重要な評価指標として位置づけています。当グループでは、本年収穫された様々な品種を用い、食味官能試験を実施しています。食味は、「外観」「香り」「味」「粘り」「硬さ」「総合」の6項目において、パネラーによる採点をもとに評価し、現行品種よりも優れた品種の選定を目指しています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.12.28
1419	水田農業グループ	<p>【大豆原種の収穫作業実施中！】 (2022. 11. 21発信)</p> <p>大豆採種農家に供給する種子(原種)について、収穫作業を行っています。今年は「フクユタカ」を栽培しており、少雨傾向であった生育初期に灌水作業を実施したことで、平年並みの収穫量を見込んでいます。これからは、良質な原種供給に向け調製作業を行っていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.12.28
1390	水田農業グループ	<p>【特定外来生物「アレチウリ」の生態を調査中】 (2022. 10. 5発信)</p> <p>特定外来生物「アレチウリ」は関東以北の大豆や飼料畑で甚大な被害をもたらしている雑草です。水田農業グループでは、令和2年から継続して温暖な九州でのアレチウリの生態を解明するため、環境省から許可を得て隔離環境下でアレチウリを試験栽培中です。本年は、生育調査とあわせ除草剤の散布試験についても実施しています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.10.30
1386	水田農業グループ	<p>【水稻原種の収穫が始まりました！】 (2022. 9. 29発信)</p> <p>水稻採種農家に供給する種子(原種)について、収穫作業が始まりました。今年は「つや姫」「なつほのか」「ヒノヒカリ」の3品種を栽培しており、今回は極早生の「つや姫」の収穫を行いました。残りの品種についても、随時収穫を進めています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.10.30
1381	水田農業グループ	<p>【水稻原種の雑穂抜きを行いました】 (2022. 9. 21発信)</p> <p>水稻採種農家に供給する種子(原種)について、雑穂抜きを行いました。今回は「ヒノヒカリ」の原種圃場にて、出穂時期や穂の高さが異なる個体がないかを確認、除去作業を行いました。雑穂抜きは、田植えから収穫までの間に3~4回程度行います。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.10.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1356	水田農業グループ	<p>【自動操舵トラクターの走行実演会を開催】 (2022. 8. 17発信)</p> <p>水田農業グループでは、既存トラクターに後付けができる比較的 低価格な自動操舵機器を導入しています。場内で生産者や 普及指導員、JA職員等を対象とした走行実演および試乗会を 開催しました。</p> <p>生産者には、自動操舵トラクターに乗り運転することで、実際 の操作感や走行精度について感じてもらうことができました。 本技術について、今後も圃場作業での活用方法を検討してい きます。</p>	 	水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37- 1160	2022.9.30
1355	水田農業グループ	<p>【ドローンによる水稲追肥散布の実演会を開催】 (2022. 8. 17発信)</p> <p>水田農業グループでは水稲の省力追肥散布方法として、 ドローンを用いた追肥技術の検討を行っています。場内ほ場 で散布を行うのに合わせて、生産者や普及指導員、JA職員等 を招いた実演会を開催しました。今後、散布ほ場の生育等を 調査し本技術の有用性を評価していきます。</p>	 	水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37- 1160	2022.9.30
1354	水田農業グループ	<p>【各地に設置した水稲採種ほのほ場審査はじまる】 (2022. 8. 17発信)</p> <p>水田農業グループでは県振興局、JAと協力して採種ほ (種子生産ほ場)の審査業務を行っています。本年産初の 水稲採種ほのほ場審査を竹田市で実施しました。 今後10月下旬まで県内各地域に設置した採種ほ場の審査を 行っていきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37- 1160	2022.9.30
1348	水田農業グループ	<p>【水稲新品種「なつほのか」の研修会に50名を超える 参加！！】 (2022. 8. 4)</p> <p>今年から本格導入された「なつほのか」について、農協等集荷 組織や県普及指導員を対象とした研修会を開催しました。</p> <p>まず、水田農業グループほ場において生育状況を確認してもら いました。その後の室内研修では、県内25か所に設置された 実証ほの生育状況や今後の栽培管理、病害虫対策に関する情報 が出席者より提供され、活発な意見交換が行われました。 「なつほのか」の生育は順調で、今後の栽培管理をしっかり 行うことで、ヒノヒカリを上回る収量・品質が見込まれます。</p>	 	水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37- 1160	2022.8.30
1342	水田農業グループ	<p>【暑さに強い水稲新品種「なつほのか」の出穂は早まる 見込みです】 (2022. 8. 1発信)</p> <p>作柄データ取得のため、「なつほのか」の幼穂調査を行いま した。7月29日現在の幼穂長は1.5mmと昨年同時期よりも長い ことから、出穂は早くなる見込みです。</p>	 <p>「なつほのか」の幼穂</p>	水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37- 1160	2022.8.30
1341	水田農業グループ	<p>【大豆原種の中耕・培土作業を行いました】 (2022. 7. 29発信)</p> <p>大豆採種農家に供給する種子(原種)について、中耕・培土 作業を実施しました。中耕・培土は、排水性の向上や雑草防除、 倒伏軽減などの効果をもたらし、大豆の安定多収栽培に向けた 重要な作業です。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37- 1160	2022.8.30
1339	水田農業グループ	<p>【ドローンによる水稲「なつほのか」生育診断技術の 開発に向けて】 (2022. 7. 27発信)</p> <p>定期的に水田農業グループの栽培条件の異なる様々な試験 ほ場をドローンにより空撮し、得られた情報から 「なつほのか」の栽培管理に有用な情報を抽出し、これを 元に分析手法を開発すべくチャレンジしています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37- 1160	2022.8.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点



(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1338	水田農業グループ	<p>【ドローンを活用した水稲生育診断技術の開発に向け、現地調査を開始】 (2022.7.27発信)</p> <p>水稲の生育データを収集するため、ドローンによる現地実証田(10ha規模)の空撮を開始しました。今後は定期的な空撮、撮影した画像の分析を行い、水稲の生育診断技術の開発を目指します。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.8.30
1337	水田農業グループ	<p>【水稲ポスター発肥料試験】 (2022.7.27発信)</p> <p>水稲に使用されている発肥料には環境汚染につながるプラスチックが使用されていることから、これを使用しない肥料への転換が求められています。そこで、水田農業グループでは農業研究部の土壌・環境チームと連携して、プラスチックを使用しない発肥料を用いた水稲栽培試験を実施しています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.8.30
1336	水田農業グループ	<p>【水稲採種ほ巡回を開始】 (2022.7.27発信)</p> <p>水田農業グループでは県振興局、JAと協力して採種ほ(種子生産ほ場)の審査業務を行っています。8月から実施する審査を前に県内各地域の採種ほを巡回して生育状況を確認し、必要に応じて生産者へ指導を行っています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.8.30
1333	水田農業グループ	<p>【はとむぎの水管理試験を開始】 (2022.7.19発信)</p> <p>はとむぎ栽培では、水分ストレスによる子実品質の低下が問題となっています。そこで、試験区毎に水条件を変えられる精密試験槽を用いて、出穂期以降の水分条件を変えて子実品質の変化を調査する試験を開始しました。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.8.30
1331	水田農業グループ	<p>【自動操舵トラクターで大豆の播種を行いました】 (2022.7.15発信)</p> <p>既存トラクターに後付けで、比較的低価格な自動操舵機器を設置して大豆の播種作業を行いました。機器の設定操作には経験が必要ですが、直進・バックの走行精度は高く、播種作業では十分利用可能であることが確認できました。今後は自動操舵トラクターでの耕起、麦播種、代かき作業等への活用を検討しています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.8.30
1330	水田農業グループ	<p>【大豆原種の播種を行いました】 (2022.7.15発信)</p> <p>大豆採種農家に供給する種子(原種)を播種しました。今年は「フクユタカ」を生産します。今後は優良な原種生産に向け、随時異形株除去や病害虫防除を実施していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.8.30
1313	水田農業グループ	<p>【なつほのか原種の田植えを行いました】 (2022.6.22発信)</p> <p>稲採種農家に供給する種子(原種)の田植えを行いました。今回は、暑さに強い水稲新品種「なつほのか」(原種)です。「なつほのか」の面積拡大に向け、均一で高品質な原種を供給するため、これから秋の収穫まで随時ほ場に入り、異形株や病害株の除去作業を行います。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.7.30
1306	水田農業グループ	<p>【ヒノヒカリ原種の播種を行いました!】 (2022.6.7発信)</p> <p>県内の水稲作付面積の約70%を占める「ヒノヒカリ」について、原種(種子)の播種を行いました。これから20日程度かけて苗を育て、6月下旬に田植え予定です。</p> <p>近年問題となっている害虫トビイロウンカ対策として、田植え前の苗箱施薬もしっかり実施していきます。生産した原種は来年以降に県内の採種圃へ供給されます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1293	水田農業グループ	<p>【麦類原種の収穫が始まりました！】 (2022. 5. 23発信)</p> <p>採種農家に供給する麦類の種子（原種）の収穫作業が始まりました。今回は裸麦「ハルアカネ」で、倒伏や病害虫の発生もなく、良質な種子を収穫できました。品質を保つため、天気のよい時期に収穫する必要があり、周辺の宇佐平野でも急ピッチで収穫作業が進んでいます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.6.30
1264	水田農業グループ	<p>【麦採種ほほ場審査を実施】 (2022. 4. 4発信)</p> <p>次年度に播種する麦種子を確保するための採種ほほを、県内主要産地に設置しています。採種ほほでは、出穂期のタイミングで当センター研究員と振興局普及員によりほほ場審査を実施します。ほほ場審査では、異品種の混入や、病害虫の発生や生育状況を確認し合否判定を行い、優良種子の確保を行っています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2022.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
------	-----	------	-------	------	------	------

③果樹グループ

(計39件)

1491	果樹グループ	<p>【ハウスブドウの花穂整形作業が始まりました】 (2023. 4. 3発信)</p> <p>当チームは、ブドウの「シャインマスカット」、「ピオーネ」を加温ハウスで栽培していますが、このハウスブドウの花穂整形作業が始まりました。花穂整形作業とは、長さ30cm程度のブドウの花穂に着生した多数の花蕾のうち、先端3cm程度だけを残して他はすべて除去する整形作業のことです。もったない気もしますが、高品質のブドウを作るためには欠かせない作業の一つです。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.4.30
1489	果樹グループ	<p>【温州ミカンの発芽が始まりました】 (2023. 3. 28発信)</p> <p>温州ミカンチームでは、例年3月より発芽状況調査を行っていますが、今年は3月24日に「おおいた早生」「宮川早生」の発芽を確認しました。3月に入って暖かい日が続いたため、平年より9~12日程度早く発芽したようです。各品種の発芽状況についても、随時、果樹グループのホームページで公開いたします。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-75-0407	2023.4.30
1488	果樹グループ	<p>【ナシの開花が始まりました】 (2023. 3. 27発信)</p> <p>落葉果樹チームの圃場では、3月20日頃からナシの開花が始まっています。3月に入って暖かい日が続いたことで、平年より一週間から十日程度早く進んでいます。23日には、満開間近の授粉用品種「ヤーリー」から花粉を採取するための「花採り作業」を行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.4.30
1487	果樹グループ	<p>【ブドウの雨よけビニール張りが始まりました】 (2023. 3. 27発信)</p> <p>落葉果樹チームの圃場では、約40aでブドウの「雨除け栽培」を行っています。発芽前の今頃から梅雨明け頃までブドウの樹の上部をビニールで覆った状態（雨よけ）で栽培することで、様々な病気からブドウを守ることができます。このビニール張り作業は3月いっぱいまで続く予定です。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.4.30
1485	果樹グループ	<p>【セミノール苗木の植え付けを行いました】 (2023. 3. 27発信)</p> <p>県南地域で栽培されているセミノール（商品名：サンクイーン）の早期成園化と省力化を目的とした試験を行うため、場内に双幹形仕立ての苗木を植え付けました。今後、育成管理を行いながら樹冠拡大、未結実期間等について慣行の開心自然形と比較するとともに、結実開始後は袋掛けや防除、収穫作業等の省力化についても検討する予定です。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2023.4.30
1484	果樹グループ	<p>【スモモが開花期を迎えています】 (2023. 3. 20発信)</p> <p>落葉果樹チーム圃場にはスモモが11品種植栽されていますが、先週から開花が始まりました。最も開花が早いのは「ハニーハート」と「ハリウッド」で、既に満開を迎えています。それに続くのが「貴陽（きやう）」、「ソルダム」、「鳥越（ちょうえつ）」といった品種です。</p> <p>今年は、3月に入ってから気温の高い日が続いたため、平年よりも開花が一週間程度早くなっています。授粉樹である「ハリウッド」の花粉も平年より早めに採取し、3月15日には「ハニーハート」等他の品種に人工授粉を行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1477	果樹グループ	<p>【ウメの定植を行いました】 (2023. 3. 9発信)</p> <p>3月6日、落葉果樹チーム圃場内に「麗和(れいわ)」、「和郷(わごう)」、「南高(なんこう)」の3品種を定植しました。「南高」は梅干し用としておなじみの品種で、県内でも生産が盛んです。</p> <p>「麗和」と「和郷」は昨年品種登録された期待のニューフェイスで、30g以上の大果となることから梅干しや梅酒などの用途に適しており、自分の花粉で受粉する性質(自家和合性)をもつことから、受粉樹が不要で結実が安定しています。さらに「麗和」には八重咲きで観賞性が高く、「和郷」には「南高」より種が小さいという特徴もあります。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-75-0407	2023.3.31
1475	果樹グループ	<p>【ブドウハウスの加温を始めました】 (2023. 2. 27発信)</p> <p>落葉果樹チームでは、2月20日からブドウハウスの加温を始めました。既に発芽し始めている樹もあり、4月上旬頃には開花し、7月上旬頃から収穫できる見込みです。このハウス内には、「シャインマスカット」と「ピオーネ」が栽培されており、高収量を目指した2段仕立て栽培等の試験を行っています。また、今春から新たに「ナガノパープル」を植栽し、裂果対策などの試験にも取り組む予定です。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-75-0407	2023.3.31
1474	果樹グループ	<p>【大分シャインマスカットのブランド力向上に向けた技術支援】 (2023. 2. 27発信)</p> <p>2月21日、大分シャインマスカット若手生産者協議会主催の室内研修会に参加しました。この協議会は、大分シャインマスカットのブランド力向上を目的に活動しており、今年度は貯蔵や輸出にも力を入れています。</p> <p>こうした取り組みを支援するため、貯蔵中に発生する病害対策のポイントについて落葉果樹チーム研究員から説明を行いました。協議会では、来年度も引き続き大分シャインマスカットのブランド力向上を目指すとのことで、当チームでも技術支援を継続します。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.3.31
1472	果樹グループ	<p>【柑橘の剪定研修が開催されました】 (2023. 2. 24発信)</p> <p>本研修は、果樹を担当する若手普及職員や農協職員を対象に開催されました。最初に果樹グループ研究員や広域普及員から樹の状態に応じた剪定方法を学んだ後、個人ごとに担当樹を割り振って実習を行いました。</p> <p>実習後は講師からの講評に一喜一憂する姿も見られましたが、研修参加者にとっては各地域で開催される講習会の事前練習としても良い機会となりました。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-75-0407	2023.3.31
1468	果樹グループ	<p>【JAおおいた天瀬ぶどう部会の長期貯蔵への技術支援】 (2023. 2. 22発信)</p> <p>2月16日、JAおおいた天瀬ぶどう部会の貯蔵反省会に参加しました。同部会では、落葉果樹チームが開発した貯蔵技術をベースに、3年前から専用の冷蔵庫を導入して「シャインマスカット」の長期貯蔵に取り組んでいます。</p> <p>この日は、本年度の貯蔵中に発生した病害やその対策等について担当研究員がスライドで説明を行いました。同部会の本年度の貯蔵量は約1.5tでしたが、来年度以降は病害対策を徹底しながらさらに増やしていくとのことで、当グループでも技術支援を継続します。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.3.31
1466	果樹グループ	<p>【キウイフルーツの貯蔵果実調査を行いました】 (2023. 2. 16発信)</p> <p>落葉果樹チームでは、キウイフルーツの貯蔵性向上を目的とした収穫後の管理方法について検討しています。2月13日には、低温貯蔵110日後の果実の軟化状況について調査を行いました。本年度は台風による落葉の影響が心配されましたが、貯蔵果実の状態は良好でした。この調査は1月から行っており、4月まで月1回のペースで継続する予定です。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.3.31

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1465	果樹グループ	<p>【ウメの開花が始まっています】 (2023. 2. 13発信)</p> <p>落葉果樹チームに植栽されている、ウメ「竜峡小梅(りゅうきょうこうめ)」の本格的な開花が始まっています。開花の走りは1月中旬頃に見られましたが、1月下旬の寒波で開花前の蕾の多くが枯死してしまいました。2月に入って温暖な日も多くなり、開花が順調に進みました。当地における「竜峡小梅」の平年満開日は2月14日ですが、今年は少し遅くなりそうです。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.2.28
1464	果樹グループ	<p>【JA若手営農指導員の研修を行いました】 (2023. 2. 8発信)</p> <p>落葉果樹チームでは2月7、8日の2日間、JAおおいた営農指導員の研修を行いました。受講生は昨年4月に営農指導員として採用されたばかりで、担当品目であるカボスやブドウ、スモモなどの果樹類に関する基本的な知識、技術の習得を目的にJAおおいたから研修を依頼されたものです。今回はブドウを中心に防除の基礎を座学で、圃場では整枝・剪定の実技研修を行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.2.28
1463	果樹グループ	<p>【ナシ、ブドウの研究成果を紹介しました】 (2023. 2. 10発信)</p> <p>2月7日、熊本県のJAたまな荒尾梨部会青年部会員ら13名が落葉果樹チームに視察に訪れました。ナシの流線型仕立やブドウの2段仕立て栽培について担当研究員が室内で説明を行った後、圃場を案内し、実際の植栽状況を確認しながら情報交換を行いました。説明を受けた生産者からは、「ナシの流線型仕立に取り組んでみたくなった」との声も聞かれました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.2.28
1460	果樹グループ	<p>【キウイフルーツの根量調査を行いました】 (2023. 2. 3発信)</p> <p>落葉果樹チームでは、水田畑地化によるキウイフルーツの産地拡大を支援するため、土壌改良資材や台木の検討を行っています。</p> <p>昨年春に佐伯市内で採集した水田土壌にバーク堆肥を混合し、ポットに植え付けた慣行台木とシマサルナシ台木のキウイフルーツの根量調査を行いました。シマサルナシ台木(写真左)の方が、慣行台木(写真右)よりも主幹部が太く根量も多い傾向が認められました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.2.28
1449	果樹グループ	<p>【キウイフルーツの大規模圃場を視察しました】 (2023. 1. 11発信)</p> <p>落葉果樹チームでは、低コスト化・省力化をはかるためキウイフルーツ用棚施設の改良に取り組んでいます。豊後大野市の参入企業による大規模圃場では、ニュージーランド式と呼ばれる棚施設で栽培を行っていることから、1月10日に現地を訪問し、施設の構造等を見学させていただきました。国内で設置される棚施設とは異なる部分も多く、今後の研究の参考にしたいと考えています。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.1.31
1448	果樹グループ	<p>【新しい仕立て方法開発のヒントに！大分大学との連携】 (2023. 1. 11発信)</p> <p>落葉果樹チームでは、ブドウの2段仕立てや、ナシの流線型仕立など新しい仕立て方法の研究を行っており、その一環として、大分大学理工学部共創理工学科のアドバイスを頂きながら、「受光態勢の改善」をテーマにした新たな取り組みを検討中です。1月5日には、井上教授と鈴木助教をお招きしブドウやナシの仕立て状況を一緒に確認しながら意見交換を行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.1.31
1433	果樹グループ	<p>【地元の園児が温州みかんの収穫を体験しました】 (2022. 12. 15発信)</p> <p>12月14日、国東市の南部こども園の園児27名と園の関係者5名が当グループに来所しました。クイズを出しながら美味しいみかんの選び方やハサミの使い方の説明を行った後、実際に温州みかんの収穫を体験しました。今回の体験をきっかけに、果物に興味を持って頂けることを期待しています。</p>		果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2022.12.28

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1428	果樹グループ	<p>【省力栽培技術研修会が開催されました】 (2022. 12. 5発信)</p> <p>本研修会は大分県柑橘研究会の主催で11月28日に温州ミカンチームで開催され、県内のカンキツ生産者、果樹担当技術者の約30名が参加しました。最初に室内研修として、本チームが取り組んでいるスマート技術活用の研究目的とこれまでの取り組み内容を報告し、続いて圃場での実演を行いました。生産者からたくさんの方の意見をいただき、今後の試験研究に活かせる場となりました。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2022.12.28
1387	果樹グループ	<p>【ロボット草刈機の実演研修を行いました】 (2022. 9. 30発信)</p> <p>温州ミカンチームでは、本年度よりカンキツ栽培におけるスマート技術の活用について検討中で、9月28日にメーカー担当者を招聘し、ロボット草刈機の実演研修会を開催しました。</p> <p>杵築市の生産者等約20名の参加者は、自動で草刈りを行うロボット草刈機に興味津々で、全国の導入状況や性能に関する質問など活発な意見交換が行われ、草刈作業の機械化・省力化ニーズが高いことが改めて確認できました。</p>		果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2022.10.30
1383	果樹グループ	<p>【ナシとブドウの品評会が開催されました】 (2022. 9. 22発信)</p> <p>大分県園芸活性化協議会等が主催するナシ「あきづき」とブドウ「シャインマスカット」の品評会が開催され、それぞれ48点、41点が県内から出品されました。</p> <p>9月16日は予備審査として、落葉果樹チーム研究員らで果実品質等について分析を行いました。 9月17日の本審査は大分市の商業施設「パークプレイス大分」で開催され、果樹グループ長が審査員長となり、なし10名、ぶどう7名の入賞者を決定しました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.10.30
1382	果樹グループ	<p>【シャインマスカット貯蔵の現地試験を行っています】 (2022. 9. 22発信)</p> <p>落葉果樹チームでは、JAおおいたが国の事業を活用して実施しているシャインマスカットの貯蔵試験を支援しています。9月13日には日田市天瀬町の圃場で収穫された果実を用いて、貯蔵用果実袋の比較試験を開始しました。今後、貯蔵果実の品質推移を調査するとともに、一部は海外輸出のための試験に用いられる予定です。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.10.30
1369	果樹グループ	<p>【果樹専門技術研修が開催されました】 (2022. 8. 31発信)</p> <p>8月29日に若手の振興局職員、JA営農指導員を対象とした果樹専門技術研修が開催されました。この日は、ブドウとナシの果実品質、特に果皮色の見分け方や、糖度、酸度の分析方法について、担当研究員が指導を行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.9.30
1368	果樹グループ	<p>【県立農業大学校生にブドウの品質調査方法を指導しました】 (2022. 8. 31発信)</p> <p>落葉果樹チームが開発中の「シャインマスカット」、「ピオーネ」の2段仕立て栽培に、県立農業大学校生がチャレンジしています。8月26日に2段仕立てで栽培した両品種の果実が落葉果樹チームに持ち込まれ、担当研究員が学生達に果実品質調査方法について実習を交えながら指導を行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.9.30
1367	果樹グループ	<p>【ワイン用ブドウの品質調査が始まっています】 (2022. 8. 31発信)</p> <p>落葉果樹チームと安心院葡萄酒工場の共同研究により開発したワイン用ブドウが間もなく収穫時期を迎えます。開発したワイン用ブドウは6品種あり、8月下旬から品質調査を行いながら、収穫適期を判断して収穫します。 例年は9月上旬頃から収穫が始まりますが、今年も例年並みの収穫時期となりそうです。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.9.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1362	果樹グループ	<p>【自動走行草刈機の操作研修を行いました】 (2022. 8. 25発信)</p> <p>三陽機器株式会社の職員を招聘し、自動走行草刈機の操作研修を行いました。講師の指導を受けながら研究員が実際に走行ルートの設定や操作を行い、約15aの草刈りを2時間程度で終えることができました。今回の研修成果を活かし、今後、ロボット草刈り機の有用性等について検証していきます。</p>		果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2022.9.30
1350	果樹グループ	<p>【極早生ナシの収穫が始まっています】 (2022. 8. 9発信)</p> <p>落葉果樹チームでは、約30品種のナシを栽培しています。この中で最も早く収穫を迎える極早生品種では、「香麗（こうれい）」や「なつしずく」など8品種を栽培しており、7月下旬から収穫が始まっています。極早生品種の収穫は8月上旬までで、続いて「幸水」などの早生品種、「豊水」、「あきづき」などの中生品種へと続いていきます。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.8.30
1340	果樹グループ	<p>【普及指導員を対象とした研修会が開催されました】 (2022. 7. 29発信)</p> <p>研修会は月に1回程度開催されており、7月25日は振興局の果樹担当普及指導員10名が参加しました。落葉果樹チーム研究員や広域普及指導員が講師となり、ブドウの品質分析方法やナシ、キウイフルーツの夏季管理、ナシ極早生品種の食味比較などを行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.8.30
1334	果樹グループ	<p>【大分県なし研究会若手生産者研修会が開催されました】 (2022. 7. 20発信)</p> <p>研修会は7月14日に落葉チームで開催され、県内の若手なし生産者、関係機関合わせて40名が参加しました。最初に室内研修として、ナシの夏季管理、有望新品種に関する神奈川県、埼玉県における取り組みについて視察報告を行いました。続いて、場内における流線型仕立と改良流線型仕立の栽培状況や、新品種の着果状況等について圃場研修を行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.8.30
1328	果樹グループ	<p>【ハウスピオーネの収穫が始まりました】 (2022. 7. 14発信)</p> <p>加温ハウスで栽培している「ピオーネ」が収穫期を迎えました。このハウスでは2月下旬から加温を始め、4月上旬に花が咲き、その後は摘粒や袋掛け等の管理作業を行ってきました。今年は梅雨が短く、日照量も多かったことから、県内のブドウ産地と同様に大粒で品質の良い「ピオーネ」に仕上がっています。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.7.30
1323	果樹グループ	<p>【ブドウ雨除けビニールを除去しました】 (2022. 7. 8発信)</p> <p>ブドウの雨除け栽培では、袋掛けが終わり、梅雨が明けると雨除けビニールを除去するのが一般的です。今年の梅雨明けはとて早く、また台風の襲来も予想されたため、例年より早い7月1日から作業を始め、除去後は鳥害を防ぐためのネットを被せました。長さ35m、幅4.5mのビニールを一棟ずつ除去するのは重労働ですが、職員総出で無事終えることが出来ました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.7.30
1318	果樹グループ	<p>【スモモの収穫が始まっています】 (2022. 6. 24発信)</p> <p>果樹グループで栽培しているスモモが収穫期を迎えています。最も早く収穫を迎えたのが「ハニーローザ」という50g位の小ぶりの品種で、6月13日から22日まで収穫が続きました。この他にも「大石早生」や「サンタローザ」の収穫も始まり、6月下旬からは「ハニーハート」や「ソルダム」等が続きます。今年のスモモは雨が少ないため、糖度が高く食味も抜群です。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.7.30
1297	果樹グループ	<p>【ナシの植付けを行いました】 (2022. 5. 27発信)</p> <p>落葉果樹チームではナシの流線型仕立に使用する大苗育苗の試験に取り組んでいます。植付け後の土壌病害発生状況を比較するため、培土を変えて育苗した大苗32本を圃場に定植しました。5月24日の宇佐市はとて暑く、汗をかきながらの作業でしたが、3時間ほどで終わることが出来ました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点




(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1295	果樹グループ	<p>【専門技術研修が開催されました】 (2022. 5. 25発信)</p> <p>振興局職員や農協の営農指導員等を対象とした落葉果樹専門技術研修が5月23日に開催されました。午前中は新任職員4名に対し県の果樹振興方針や落葉果樹の果樹生理・生態、病害虫対策、ナシ・ブドウ・キウイの試験内容等について座学を行い、午後からはベテラン職員も加わってブドウのジベレリン処理の実習を行いました。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.6.30
1292	果樹グループ	<p>【ウメの収穫が始まりました】 (2022. 5. 20発信)</p> <p>落葉果樹チームで栽培しているウメの収穫が5月16日から始まりました。この日収穫したのは小ウメの「竜峡」という品種です。今年の当チームの作柄は良好で、3本の樹から約80kgが収穫できました。これから収穫作業は大ウメの「林州」、「白加賀」と続き、6月中旬の「南高」まで行われます。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.6.30
1274	果樹グループ	<p>【果樹向けドローンの農薬散布実演を行いました】 (2022. 4. 22発信)</p> <p>生産者、JAグループ、国東市、東部振興局等の関係者約40名が参加し、ドローン散布の実演を行いました。果樹モードと呼ばれるノズル角度を広げて散布する方法では、葉裏までしっかりと薬液が付着していることが確認でき、価格、ランニングコスト、メンテナンス等について活発な意見交換も行われました。</p>		果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2022.5.31
1271	果樹グループ	<p>【ドローンを使ったナシの人工授粉を行いました】 (2022. 4. 14発信)</p> <p>ナシの人工授粉は、生産者にとって春先の重要な作業です。落葉果樹チームでは作業の効率化を図るため、試験的にドローンを使った人工授粉を行いました。5月に一般的な梵天（ぼんてん）による受粉やハンスプレーによる溶液受粉と実止まりを比較し、ドローンによる人工授粉の有効性を判断する予定です。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2022.5.31
1265	果樹グループ	<p>【ドローンを使用した防除試験を行いました】 (2022. 4. 6発信)</p> <p>発芽期が防除適期のカンキツそうか病防除を目的として、4月1日にドローンで薬剤散布を行いました。当日は感水紙を使って薬液付着度を調査しましたが、これから7月までそうか病に対する防除効果を調査して実用性を確認する予定です。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2022.4.28

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
④花きグループ (計3件)						
1315	花きグループ	<p>【プリンセス・リーフ研究会にて少量培地栽培方法を紹介しました】 (2022. 6. 22発信)</p> <p>染色ハボタンである「プリンセス・リーフ」は、可憐な色合いから市場で高い評価を得ています。染色ハボタン生産者で構成されているプリンセス・リーフ研究会で、花きグループは省力化の期待できる少量培地栽培方法を紹介し、ハボタン生産拡大に取り組んでいます。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2022.7.30
1267	花きグループ	<p>【突然変異育種をしています】 (2022. 4. 6発信)</p> <p>突然変異を起こして新しい品種を作るために、放射線の一種であるシンクロtron光を照射した植物体を養成しています。照射した葉を組織培養して植物を再生させる方法を取り入れており、この方法だと、「キメラ」と呼ばれる異なる形質が混ざったものを除くことができます。今後作出した植物体を実際に栽培して優良な個体を選抜する予定です。</p>	 <p>↑ 葉から発生した芽 花色の混ざったキメラ</p>	花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2022.4.22
1266	花きグループ 果樹グループ	<p>【カンキツのウイルスフリー苗を作出しています】 (2022. 4. 6発信)</p> <p>ウイルスに感染したカンキツの母樹からウイルスフリー苗を作る試験をしています。0.5mmの茎の先端を切り出して台木に接ぎ木をしています。伸長した芽がウイルスに感染していないことを確認して苗木を養成する予定です。</p>		花きグループ 花きチーム	0977-66-4706	2022.4.22

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
------	-----	------	-------	------	------	------

⑤畜産研究部 (計0件)

--	--	--	--	--	--	--

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑥林業研究部 (計21件)						
1480	林業研究部	<p>【スギ大径材利用に関する研修会】 (2023.3.14発信)</p> <p>2月27日(月)に林業普及指導員をはじめ、若手職員を対象に標記研修会を開催し、38名の参加がありました。</p> <p>スギ大径材については、県の重点課題であり、①県の方針、②試験研究の取組み、③出口対策と、施策に沿った内容についての研修を行いました。</p> <p>施策や試験・研究における問題点や課題などを理解し、現場へ普及するとともに、現場ニーズを得るためには、一つ一つの課題について、林業職員の情報共有を促進し、連携を促進していく必要があります。今回の研修会は、その第1弾として開催したもので、今後も定期的に開催していく予定です。</p>	 <p>研修会の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.3.31
1459	林業研究部	<p>【令和4年度林業研究部研究発表会を開催】 (2023.2.3発信)</p> <p>1月31日(火)に標記研究発表会を開催しました。外部から49名の参加があり、森林チームから2課題、木材チームから1課題の発表を行いました。今回の発表については研究期間中の課題であり、現時点での成果について、少しでも早く普及することを主眼に進めました。最終的な結果については年報等で報告することとしています。</p>	 <p>研究発表会の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.2.28
1458	林業研究部	<p>【県産スギ材等の接着重ね梁の曲げ強度試験】 (2023.2.3発信)</p> <p>現在木材チームでは、県産のスギ材やヒノキ材を使用して製作した、接着重ね梁の曲げ強度試験を行っています。これは、国の方針に従い、木造建築物への利用促進を図るため、大断面集成材工場のない大分県において、スギ等の柱材を縦に接着した後、さらに積み重ねて接着することで、新たな利活用が出来ないかを検討していくものです。</p> <p>スギやヒノキだけでなく、スギとヒノキのように異樹種を接着したり、長さ方向に接合することで延長の長い重ね梁が使用できるように、JAS規格へ働きかけるデータを集積しています。</p>	 <p>曲げ強度試験の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.2.28
1446	林業研究部	<p>【古曳 上席主幹研究員が第35回研究功績賞を受賞】 (2023.1.6発信)</p> <p>当研究部木材チームの古曳博也上席主幹研究員が全国林業試験研究機関協議会主催の研究功績賞を受賞しました。</p> <p>古曳上席主幹研究員は、昭和62年に入庁し、大分県別府産業工芸試験所をはじめに、産業科学技術センター等、試験研究機関に一貫して従事し、平成22年度から農林水産研究センター林業研究部木材チームの一員として、試験・研究に没頭されました。今回は、これまでの大分県産木竹材の用途開発に関する研究についての取組みが評価されたものです。</p> <p>古曳上席主幹研究員は、現在「スギ心去り構造用製材等の品質に関する研究」を進めており、スギの大径材対策に取組んでいます。</p>	 <p>研究功績賞を受賞した古曳上席主幹研究員</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.1.31
1445	林業研究部	<p>【若手研究員による林業研究部の視察】 (2023.1.6発信)</p> <p>12月15日(木)に実施された若手研究員研修にあわせ、若手研究員に林業研究部の施設や取組について研修を行いました。今回参加したのは、林業以外の分野に所属する研究員をはじめとした10名で、苗畑や試験林、木材加工に係る施設等を見学してもらいました。</p> <p>普段は、農業や水産などの分野で研究を行っていることから、異分野の取組を見ることが、今後の研究に少しでも影響してもらえることを願っています。</p>	 <p>若手研究員の視察の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.1.31

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1443	林業研究部	<p>【林業研究特別講演会】 (2023. 1. 5発信)</p> <p>12月4日(日)に、パトリア日田で「日田の木と暮らしのフェア」が開催され、林業研究部主催で、九州大学大学院農学研究院の清水邦義准教授を招き「スギ材の多機能性(人の心理生理応答・抗ウイルス効果)と需要拡大に向けて」と題して林業研究特別講演会を開催しました。</p> <p>一般の方以外にも日田市内の高校等に呼びかけ、高校生等60名を含む182名の参加があり、住環境等においてスギが人間に与える各種機能についての話に聞き入っていました。講演後、高校生にアンケートをとると、様々な意見や疑問が挙げられました。これらの声に答えていくことで、少しでもスギ等県産材の利活用に寄与したいと考えています。</p>	 <p>特別講演会の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.1.31
1442	林業研究部	<p>【日田の木と暮らしのフェア】 (2023. 1. 5発信)</p> <p>12月4日(日)に、パトリア日田で「日田の木と暮らしのフェア」が開催され、林業研究部における試験・研究の取組について出展ブースを設けました。</p> <p>「大径材の有効利用技術の開発」や「早生樹造林」などの研究を展示発表することで、現在、大分県が抱える森林・林業の諸問題に対して、試験・研究や行政の取組に対して、少しでも興味を持っていただけたのではないかと思います。農林水産祭から始まり、日田市工業展、全国育樹祭と続いたイベントにおける試験・研究のPR活動もこれで、一段落といたしました。</p>	 <p>研究の展示発表</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.1.31
1423	林業研究部	<p>【農林水産副大臣、林野庁長官来訪】 (2022. 11. 28発信)</p> <p>第45回全国育樹祭の開催に伴い11月13日に、野中厚農林水産副大臣、織田央林野庁長官が林業研究部の視察に来訪されました。</p> <p>林業研究部の試験研究の主な取組として「スギ大径材の利用拡大」、「早生樹やエリートツリーの苗木生産技術」などの課題について説明を行ない、あわせて林業研究部創立75周年の記念植樹をしていただきました。</p> <p>大分県の森林・林業の現状と問題点、そして取組についてご理解いただく良い機会を得ることが出来ました。</p>	 <p>視察の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2022.12.28
1422	林業研究部	<p>【全国育樹祭】 (2022. 11. 28発信)</p> <p>11月12日(土)～13日(日)に、大分県で第45回全国育樹祭が開催されました。</p> <p>林業研究部は13日に昭和電工武道スポーツセンター(大分市)の前の「おもてなし広場」において展示ブースを設置し、全国育樹祭に参加された方々に対して、日頃の試験研究の取組みの紹介やスギの木琴の展示を行いました。</p> <p>子供達には、スギの木琴が大好評で、会場内に木琴の音色が響いていました。他県からお越しの方もいて、大分県の試験研究の取組みについてアピールできたのではないかと思います。</p>	 <p>研究内容の説明</p>  <p>スギの木琴</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2022.12.28
1421	林業研究部	<p>【日田市工業展】 (2022. 11. 28発信)</p> <p>10月29日(土)～30日(日)に、パトリア日田で日田市工業展が開催されました。林業研究部は、県内家具業界とのつながりから、試験研究の成果を普及するブースを設置し、県産材を使用した家具の取り組みや、早生樹導入についての研究課題について展示を行い、延べ300名を超える方がブースを訪れました。</p> <p>林業研究部はこれからも、森林・林業・木材産業と連携を密にとりながら試験研究を進めていきます。</p>	 <p>研究発表ブース</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2022.12.28
1406	林業研究部	<p>【大分県農林水産祭】 (2022. 11. 2発信)</p> <p>10月22日(土)～23日(日)に、別府公園において、農林水産祭が開催されました。林業研究部では子供達を対象とした「木とのふれあい体験」として、木工体験教室やスギの木琴展示等を行いました。天候に恵まれ、両日ともに300人を超える方々が訪れてくれました。林業研究部では、試験・研究の推進とともに、このような「木育」の取組を進めていきたいと思っています。</p>	 <p>スギの木琴体験</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2022.11.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1405	林業研究部	<p>【高校生インターンシップ研修】 (2022.11.2発信)</p> <p>10月19日(水)に、県立日田林工高等学校生がインターンシップ体験研修に訪れました。</p> <p>林業研究部の試験・研究の取組みなどを座学で学び、施設や圃場等を見て回りました。木材の試験において、寸法や重量、動的ヤング係数の測定等を実習し、規定のカリキュラムを修了しました。研修生は普段見ることのない仕事を見て体験することで、強く興味を持ってくれたようでした。</p> <p>地元の高校生が、このような体験研修を行なうことで、森林・林業・木材産業に興味を持ち、そして、いつかは大分県の林業職員の仲間入りをしてくれたらと期待しています。</p>	 <p>研修状況</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2022.11.30
1374	林業研究部	<p>【企業技術者研修会の開催】 (2022.9.7発信)</p> <p>8月27日(土)に林業研究部において、県内企業技術者の養成、技術レベルの向上を図るため「椅子張りの基礎技術研修」として、企業5社22名が参加の企業技術者研修会を開催しました。研修会は、東京で家具・木工業を営む講師2名を招聘し、スライドによる座学と実技の実演によりわかりやすく進められました。受講者は、普段扱わない技術について、熱心に研修に取り組んでいました。</p>	 <p>研修状況</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2022.9.30
1344	林業研究部	<p>【早生樹の獣害対策実証試験】 (2022.8.2発信)</p> <p>林業研究部森林チームでは、7月6日に日田市前津江町赤石の山林において、早生樹であるコウヨウザンの獣害対策実証試験を行うため、試験林の造成を行いました。</p> <p>実証試験として、シカ対策となるシカネットの設置とともに、近年、新植造林地において問題となっているウサギの被害対策として、不織布による比較実証試験を行うこととしています。ウサギはシカネットの穴をくぐり抜けてしまうため、単木毎に不織布のシェルターを設置しています。</p> <p>この成果については、経時的に観察し、情報普及を図っていく予定です。</p>	 <p>不織布のシェルター</p>  <p>試験地の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2022.8.30
1327	林業研究部	<p>【県産スギ大径材に関する研修会】 (2022.7.14発信)</p> <p>6月28日に日田郡森林組合において「スギ大径材」に関する学習会を行いました。(16名参加)。 大分県ではスギの林分が高齢化しており、大径材が出荷されてくるようになりました。しかしながら、大径材は需要が少ないため安く取引されているのが現状です。</p> <p>このことから、日田郡森林組合から大径丸太を伐採し、収益を上げるため、大径材について学びたいとの要望があったことから、今回の学習会を開催しました。</p> <p>講師として、木材チームの末光T.L.らが、スギの基礎知識から大径材の木取りや乾燥等に関する研究の説明、今後の高付加価値化に係る取組みについて説明を行いました。</p>	 <p>学習会の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2022.7.30
1326	林業研究部	<p>【県営採穂園におけるコウヨウザンの採穂園造成】 (2022.7.14発信)</p> <p>林業研究部森林チームでは「早生樹の優良品種の生産技術の開発」に取り組んでいます。先日部内圃場に採穂園を造成したところですが、6月28日に杵築市山香町の県営採穂園において、森林総合研究所林木育種センター九州育種場のご指導の下、コウヨウザンの採穂園造成(選抜育種5系統を約400本)を行いました。</p> <p>今回は苗を寝せて植え付ける「寝伏せ」といわれる手法によるもので、コウヨウザンの萌芽特性を考慮したものとなっており、森林チームが今後の経過観察を行っていきます。この採穂園で生産された苗木を元に、森林整備室主体で、振興局等と連携の上、2年後には造林面積20haとする計画です。</p>	 <p>採穂園造成の様子</p>  <p>コウヨウザンの寝伏せ</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2022.7.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1311	林業研究部	<p>【コウヨウザンの採穂園造成】 (2022. 6. 15発信)</p> <p>森林チームでは「早生樹の優良種苗の生産技術の開発」 として、6月9日に圃場内にコウヨウザンの採穂園造成を行いました。</p> <p>早生樹とは、成長が早く、造林・育林の省力化が見込まれる 樹木です。中でも、コウヨウザンはスギとヒノキの中間の強度 を持つヒノキ科の針葉樹で、切り株から萌芽する特性から再造 林経費の削減が期待されています。</p> <p>今回の造成に使ったコウヨウザンの苗は森林総合研究所林木育 種センター九州育種場にて選抜育種されたもので、5系統計50本 の苗木を取得したものです。これから、県内の早生樹種造林に 供するための、コウヨウザン種苗の育成を行い、効率的な管理 手法を検討します。</p>	 <p>採穂園造成の様子</p>  <p>コウヨウザンの苗</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23- 2146	2022.7.30
1310	林業研究部	<p>【大径材利活用に対する取組み・企業訪問】 (2022. 6. 15発信)</p> <p>木材チームでは、スギ大径材の利活用を促進するため、県内 企業等を訪問し、研究成果の普及を行うとともに、乾燥や 製材等についての問題などがないか聞き取りを行い、アドバ イスを行っています。また、現在の取組課題を説明し、意見 を伺うとともに、その内容の拡充や新たなニーズの収集を行 っています。</p>	 <p>企業訪問の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23- 2146	2022.7.30
1303	林業研究部	<p>【シカ被害対策試験地】 (2022. 5. 31発信)</p> <p>林業研究部では、再造林地におけるシカ被害対策として、 「ツリーシェルター」等の防護資材の実証を研究部内圃場で 行っています。</p> <p>研究部敷地内では、シカが10頭近く生息していることが確認 されており、先頃、まだ斑点の残る若いシカが複数確認され ました。ある意味、実証試験の協力者です。</p>	 	林業研究部 企画指導担当	0973-23- 2146	2022.6.30
1302	林業研究部	<p>【スギ優良品種の材質特性の解明】 (2022. 5. 31発信)</p> <p>林業研究部では、低コスト造林施策推進に向けた取り組みの 一つとして、スギ優良品種の選抜を行うための「材質特性等 の解明」を行っています。</p> <p>今回は、九重町の次代検定林の植栽密度試験地において、 試験材料を伐採し、現在、含水率等の材質特性について調査 を進めています。今後は、試験片を製作し、強度試験に供し ます。</p>	 <p>含水率の測定状況</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23- 2146	2022.6.30
1282	林業研究部	<p>【機械器具利用にかかるオンライン化について】 (2022. 4. 28発信)</p> <p>林業研究部では、産業支援として機械器具の利用貸付けを行 ってききましたが、4月からパソコンやスマートフォンによる オンラインでの事前予約ができる大分県施設予約システムの 試行を開始しました。</p>		林業研究部 企画指導担当	0973-23- 2146	2022.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑦きのこグループ (計11件)						
1471	きのこグループ	<p>【乾シイタケ春子の発生調査を行っています】 (2023. 2. 22発信)</p> <p>きのこグループでは、乾シイタケの栽培試験を行っています。春子の発生が本格的に始まりました。採取したシイタケは各試験区毎に個数、重さを調査し、乾燥機にに入れて仕上げます。今後、選別調査を行います。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2023.3.31
1470	きのこグループ	<p>【シイタケの形質調査を行っています】 (2023. 2. 22発信)</p> <p>きのこグループでは、菌床シイタケの栽培試験を行っています。採取したシイタケの大きさ、傘の色、厚さ、硬さ等の形質を調査しています。今後、試験区毎に調査結果をとりまとめしていきます。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2023.3.31
1450	きのこグループ	<p>【クヌギ原木の玉切りを始めました】 (2023. 1. 16発信)</p> <p>きのこグループでは、原木の伐採・玉切り時期がシイタケの発生に与える影響を調査しています。今年度は伐採時期の影響を調査するため、昨年の10月から今年の1月までに毎月伐採を行いました。1月中旬からは伐採した原木の玉切り作業を始めました。今後、原木を場内に持ち帰って植菌・伏せ込み作業を行い、良質なほだ木育成管理技術を確立していきます。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2023.2.28
1439	きのこグループ	<p>【乾シイタケ実用化検定試験の発生調査を行っています】 (2022. 12. 20発信)</p> <p>きのこグループでは、乾シイタケの品種の育成を目指しており、県内各地の生産者に栽培を委託して実用化検定試験を行っています。11月上旬からきのこグループ内や試験地でシイタケの発生が始まっているので、発生状況や品質を調査しています。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2023.1.31
1438	きのこグループ	<p>【きのこグループ研究発表会を開催しました】 (2022. 12. 20発信)</p> <p>きのこグループでは、今年度の研究発表会を12月14日に開催し、約70名の参加がありました。「1年起こし」、「発生と気象要因の解析」についての2課題の研究発表と特別講演を行いました。多くの生産者から活発な意見をいただきました。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2023.1.31
1404	きのこグループ	<p>【クヌギ原木の伐採を始めました】 (2022. 10. 31発信)</p> <p>きのこグループでは、原木の伐採・玉切り時期がシイタケの発生に与える影響を調査しています。今年度は伐採時期の影響を調査するため、今月から原木の伐採作業を始めました。これから1月までの間に毎月伐採を行い、良質なほだ木育成技術を確立していきます。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2022.11.30
1403	きのこグループ	<p>【シイタケ原基の確認調査を行っています】 (2022. 10. 31発信)</p> <p>きのこグループでは、乾シイタケの単収向上を目指した研究を行っています。昨年に「1年起こし」し、夏に散水や雨除けを行ったほだ木の樹皮を剥いで、シイタケの原基(芽)数を調査しました。これから発生するシイタケの量や品質について調査する予定です。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2022.11.30
1376	きのこグループ	<p>【1年起こしたほだ木の夏場の管理試験】 (2022. 9. 8発信)</p> <p>きのこグループでは、乾シイタケの発生量増大を目指して、昨年に1年起こしをしたほだ木の夏場の管理方法を検討しています。現在、9月上旬から中旬までの水分条件の影響を明らかにする目的で、散水や雨除け(ビニール被覆)を行っています。今後、シイタケの原基(芽)調査や発生量調査を行う予定です。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2022.9.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1375	きのこグループ	<p>【廃菌床利用のアラゲキクラゲ栽培試験】 (2022. 9. 8発信)</p> <p>きのこグループでは、シイタケ廃菌床を利用した栽培試験を行っており、混合割合や含水率等を検討しています。現在、4月にアラゲキクラゲを接種した菌床からの発生調査を実施しています。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2022.9.30
1308	きのこグループ	<p>【乾シイタケの判定会を実施】 (2022. 6. 10発信)</p> <p>きのこグループでは、本県の気象条件に適合した乾シイタケのオリジナル品種の育成を目指しており、6月7日に昨年秋から春にかけて発生したシイタケの判定会議を開催しました。一次、二次選抜中の系統について、発生量や時期、品質を確認しました。今後種菌メーカーの意見を参考にし、選抜を行っていきます。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2022.6.30
1300	きのこグループ	<p>【実用化検定試験乾シイタケの選別調査を実施中】 (2022. 5. 30発信)</p> <p>きのこグループでは、本県の気象条件に適合した乾シイタケのオリジナル品種の育成を目指しており、県内各地の生産者が試験栽培を行なっています。昨年の秋から春にかけて採取した乾シイタケの選別調査を開始しました。大きさ、品柄等を調査し、発生量と合わせて評価します。</p>		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2022.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
------	-----	------	-------	------	------	------

⑧水産研究部

(計40件)

1483	水産研究部	<p>【将来の進路の指針に！ インターンシップ受入れ】 (2023. 3. 15発信)</p> <p>津久見市出身の大学2年生が、将来を見据えて、大学の研究室選定を検討するために、当研究部等において3日間、水産研究全般にわたって、座学も含めた現場体験を以下のとおり行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県水産研究部 業務概要説明 ・水産資源について(座学)、漁獲物測定、年齢査定 ・かぼす資材を使った養殖魚 食味(官能)試験 ・試験魚の飼育管理(試験筏) ・ヒラメ種苗生産(ふ化仔魚観察) ・アワビ、マコガレイ種苗の飼育管理(県漁業公社) ・病魚の観察、解剖、診断(座学) ・海洋観測、水産資源調査方法、調査船豊洋 説明 ・赤潮・貝毒原因プランクトン 検鏡 ・海藻類増養殖試験、カジメ類観察 <p>これを契機に、本県で水産関係の道に進んで、将来、一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。</p>	   	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.3.31
1455	水産研究部	<p>【水産技術職員研究発表会を開催】 (2023. 1. 31発信)</p> <p>当部では水産関係研究者(水産研究部研究員、漁業公社職員、県振興局水産普及指導員)の相互理解と資質向上を図るため、昭和45年から本研究発表会を毎年行っており、去る1月26日に本年度の研究会を開催しました。合計14課題の研究発表がなされ、水産関係現場における課題の早期解決に向けて、熱心な質疑や討論が行われました。研究成果は、今後の本県水産業の発展につなげていきます。</p>	 	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.2.28
1451	水産研究部	<p>【保戸島で水揚げされるトラフグの漁獲状況を調査しました！】 (2023. 1. 20発信)</p> <p>本県で漁獲されるトラフグの漁獲実態を把握するため、豊後水道域でもっとも漁獲量の多い保戸島で調査しました。漁業者から釣獲場所を聞き取りながら、漁獲直後のトラフグの体重、体長の測定を行いました。漁場は佐賀関の高島周辺が主体で、魚体重1~4kgの大型サイズを含め33尾が漁獲されました。水温が18℃を下回る1月に入り最盛期を迎え、漁獲量も増えてきたようで、調査は今年度いっぱい続けます。</p>	 	水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2023.2.28
1437	水産研究部	<p>【佐伯市で赤潮研究集会が開催されました！】 (2022. 12. 19発信)</p> <p>12月15~16日に佐伯市で、愛媛大学沿岸環境科学センターが主催し、名古屋大学宇宙地球環境研究所及び大分県農林水産研究指導センター水産研究部の協力により、「赤潮の予測とその社会実装に向けた研究」をテーマに研究集会が開催されました。</p> <p>当研究部からは「IoTを用いた赤潮監視に関する研究」について2題発表を行いました。赤潮研究者だけでなく、養殖業者、水産系企業担当者なども集い、活発な議論が行われました。</p>	 	水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2023.1.31
1434	水産研究部	<p>【かぼすブリの出荷前検査を行いました！】 (2022. 12. 16発信)</p> <p>正月用の養殖ブリの出荷がまもなく始まります。当研究部では年末に出荷する「かぼすブリ」の品質が基準を満たしているかどうか調べるため、出荷前検査を実施しています。品質をチェックすることで、味良し・香り良し・見た目良しの「かぼすブリ」を養殖業者は安心して出荷できます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2023.1.31

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1430	水産研究部	<p>【漁業学校 3時間目「魚類栄養学」】 (2022. 12. 8発信)</p> <p>漁業後継者育成のための漁業学校で、1時間目「ブリ人工種苗生産(8月)」2時間目「魚病学(座学)・魚病診断(実習)(10月)」に続いて、3時間目「魚類栄養学」が行われました。</p> <p>授業では、魚類養殖においては「健康で丈夫に育てる」とこと、「早く、大きく、効率良く育てる」とこと、そして「おいしく育てる」ことが重要、という講義がありました。また、おいしさについては、センサー等で測定して科学的データでの裏付けも重要、という話もありました。</p> <p>消費者の方々に喜ばれる「養殖魚」を追求し続ける研究員の思いも勉強になったと思います。</p>	 <p>血合い(肉)の色変わりをセンサーで測定、数値化</p>	水産研究部 養殖環境チーム 企画指導担当	0972-32-2155	2022.12.28
1418	水産研究部	<p>【赤潮対策アサリ養殖試験を実施中！】 (2022. 11. 21発信)</p> <p>当研究部では赤潮対策の一環として、南部振興局の協力により佐伯市蒲江の猪串湾において、赤潮の原因生物である植物プランクトンを餌として利用するアサリ養殖に取り組んでいます。コンテナに砂(アンストラサイト)を入れ、水深3mの場所で垂下することで順調な生育が確認されています。今後の研究の進展で、赤潮を餌として利用する環境に優しいアサリ養殖手法の開発が期待されます。</p>	 	水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2022.12.28
1413	水産研究部	<p>【網の汚れを防ぐ生簀網の改良に着手！】 (2022. 11. 15発信)</p> <p>水産研究部では養殖中の生簀網の汚れをできるだけ少なくし、養殖ブリが健全に育ち、環境への負荷を軽減するため生簀網の改良に着手しました。</p> <p>今回、銅合金製の網と一般的に利用している化学繊維網、亜鉛メッキ鉄製網で水生生物の付着状況を比較しました。海中垂下後71日目で一般的に利用している網と比較し、銅合金製の網ではほとんど水生生物の付着がみられませんでした。今後は経費面など長期的使用の有効性を検証します。</p>	 <p>化学繊維網</p>  <p>亜鉛メッキ鉄製網</p>  <p>銅合金製網</p>	水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2022.12.28
1401	水産研究部	<p>【「安心・安全で美味しい養殖魚」第2回目の現地研修会を開催！】 (2022. 10. 27発信)</p> <p>水産養殖協議会主催による今年度第2回目の養殖魚現地研修会が開催され、佐伯市立下堅田小5年(生徒22名+教員4名)26名が参加しました。</p> <p>陸上養殖場の見学では、ヒラメとトラフグへの餌やりの他に、ヒラメの「5枚おろし」も体験して、「命をいただく」ということを改めて考えたようです。沖合ブリ養殖場では「給餌船」の説明も聴き、餌やりについて理解を深めました。</p> <p>勉強会では、児童全員から質問がありましたが、養殖生産者からの丁寧な答えに、養殖漁業への理解をさらに深め、今後、スーパー等で「養殖魚」を見かけた時には、今日の体験を思い返してくれると思います。</p>	 <p>ヒラメの「5枚おろし」</p>  <p>沖合ブリ養殖場の見学</p>  <p>養殖生産者との勉強会</p>	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.11.30
1397	水産研究部	<p>【漁業学校 2時間目「魚病学・魚病診断技術実習」】 (2022. 10. 20発信)</p> <p>漁業後継者育成のための「漁業学校」が、今年も開校、先月は当研究部における1時間目「ブリ人工種苗生産」が行われたところですが(前回(9/1付け)参照)、今回、2時間目「魚病学(座学)・魚病診断技術(実習)」が行われました。</p> <p>研修生は、家業である魚類養殖業に約半年間、携わってきましたが、「魚病対策」は大きな課題の一つと認識していて、今回の講座により、これまでの疑問点を確認することができ、今後につながることを期待します。</p>	 <p>魚病学(座学)</p>  <p>魚病診断技術(実習)</p>	水産研究部 養殖環境チーム 企画指導担当	0972-32-2155	2022.11.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1396	水産研究部	<p>【ハダムシワクチンの実用化を目指して】 (2022. 10. 19発信)</p> <p>養殖ブリ類は飼育中に寄生虫（ハダムシ：Benedenia seriolaе）が体表に付き、魚の成長や健康状態に悪影響を及ぼします。駆虫には定期的な投薬や淡水浴が行われますが、労力や経費がかかります。この課題を解決できるように、魚がハダムシの寄生を受けにくくなるワクチンの試験を東京海洋大学との共同研究で実施しています。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2022.11.30
1394	水産研究部	<p>【8月産まれのブリ人工種苗、現地養殖試験開始】 (2022. 10. 18発信)</p> <p>出荷端境期対応を目的に、通常産卵期から3~4ヶ月遅い8月に採卵、種苗生産を開始したことは、前回(8/22付け)お知らせしましたが、ここまで漁業公社協力のもと生産してきた“その子供たち”約13,000尾(約8~9cm)が、今回、養殖場へ旅立ちました。</p> <p>通常とは異なる時期に池入れしたこの子供たちが、今後、どのような成長を見せてくれるか、養殖業関係者と一緒に、データを取りながら見守っていきます。</p>	 <p>漁業公社での種苗取り揚げ</p> <p>現地養殖場での種苗受け入れ</p> <p>ブリ人工種苗</p>	水産研究部 資源増殖チーム 企画指導担当	0972-32-2155	2022.11.30
1393	水産研究部	<p>【病気に強い養殖ヒラメの選抜育種を実施中！】 (2022. 10. 13発信)</p> <p>当研究部では、病気に強いヒラメの選抜育種を実施していますが、養殖現場で問題となっているエドワジエラ症に対する耐病性を確認するため、選抜育種を行ったヒラメにエドワジエラ菌を接種及び浸漬させ感染実験を行いました。強制的に感染させた後、生残状況および終了時の菌保有状況を調査し、耐病性を検証します。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.10.30
1392	水産研究部	<p>【養殖ブリのⅢ型レンサ球菌症に対するワクチン試験を開始！】 (2022. 10. 12発信)</p> <p>養殖ブリのレンサ球菌症に対する疾病防除は主にワクチン接種により行われており、これまでⅠ型、Ⅱ型の菌に対してワクチンが開発されています。昨年度新たにⅢ型の菌がみられるようになり問題となっています。</p> <p>今回Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ型のすべてに共通抗原を持つと思われる菌株を用いてワクチンを作成し、ブリ稚魚に接種し、その効果を検証します。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2022.10.30
1391	水産研究部	<p>【「安心・安全で美味しい養殖魚」を学びました】 (2022. 10. 7発信)</p> <p>水産養殖協議会主催による養殖魚現地研修会に、犬飼小学校5年生16名が参加して、陸上ヒラメ養殖場と沖合ブリ養殖場の見学を行いました。昼食会では、刺身やブリカツ、お味噌汁など、養殖魚の美味しさを直接味わってもらいました。勉強会でも活発に質問が飛び交い、養殖生産者の真剣な答えに、児童もさらに理解を深めたようで、とても充実した研修会になりました。</p>	 <p>陸上ヒラメ養殖場の見学</p> <p>沖合ブリ養殖場の見学</p>	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.10.30
1385	水産研究部	<p>【マガキシングルシード種苗の中間育成を開始しました】 (2022. 9. 27発信)</p> <p>地場採苗によるマガキの天然種苗は人工種苗と比較して商品サイズにするまで時間がかかり、早期に成長を促す必要があります。当研究部ではプラスチックの衣装ケースを利用し、簡易な中間育成装置を考案・作成しました。太陽光発電により水中ポンプを稼働させ、人工水流により餌となる植物プランクトンを含んだ海水を種苗に送り続けることで成長を促し、種苗の大型化が可能か検討します。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.10.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1384	水産研究部	<p>【インターンシップを受入れました！】 (2022. 9. 22発信)</p> <p>9月16日、大学生(水産系学部)3名がインターンシップにより来訪しました。就労体験や施設見学、試験研究課題に関する座学を通して、水産研究の魅力とやりがいに触れていただきました。将来の進路として、県職員(水産職)を選択してくれることを期待しています。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.10.30
1370	水産研究部	<p>【ブリの人工種苗生産を学ぶため漁業学校が開催される！】 (2022. 9. 1発信)</p> <p>大分県では漁業後継者育成のため、県と県漁協で連携して漁業学校を運営しています。今回魚類養殖業を目指す研修生1名がブリ養殖の基礎知識を学ぶため、当研究部が実施しているブリの人工種苗生産について受講しました。研修生は説明に熱心に耳を傾け、種苗生産現場も視察し、活発に意見交換を行いました。</p>		水産研究部 資源増殖チーム 企画指導担当	0972-32-2155	2022.9.30
1366	水産研究部	<p>【卵稚仔調査を行っています】 (2022. 8. 30発信)</p> <p>豊予海峡(大分県関崎～愛媛県佐多岬)周辺海域はマアジやタチウオ等の産卵場となっています。当研究部ではこれらの有用魚種の卵、仔稚魚の分布を把握するため、3～10月に調査船豊洋でプランクトンネットを曳く調査を行っています。</p> <p>得られたデータの解析を進めて、関係機関へより良い資源管理方を提言していきます。</p>		水産研究部 資源増殖チーム 企画指導担当	0972-32-2155	2022.9.30
1360	水産研究部	<p>【8月のブリ人工種苗生産を開始しました！】 (2022. 8. 22発信)</p> <p>養殖ブリが品薄となる「端境期(4～6月)」の安定出荷を目指し、通常のブリの産卵時期(4～5月)とは異なる8月に採卵を実施しました。今回8月採卵用に仕立てた雌親魚3尾から23万粒採卵し、受精後のふ化率は約23%でした。今後、2万尾以上の種苗を確保し、現地養殖試験を実施する予定です。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.9.30
1359	水産研究部	<p>【佐伯鶴城高等学校の「ジョブシャドウイング研修」を受け入れ】 (2022. 8. 19発信)</p> <p>ジョブシャドウイングとは「職業教育」の一つで、中・高校生が会社等で従業員と一緒に行動して、その仕事を観察する、というものです。今回、佐伯鶴城高等学校1年生6名を当研究部に受け入れて、研修を行いました。</p> <p>我々研究員の仕事を観察して、水産研究の魅力を感じ取っていただければ幸いです。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.9.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1352	水産研究部	<p>【夏休みの自由研究に！ チリモン(刊メンスター)探し】 (2022. 8. 10発信)</p> <p>みなさんが食べているちりめんは、製造過程で選別を行っています。その選別されたものが何なのか？うすき海のほんまもん漁業推進協議会主催の「おさかな教室」で調べてみました。</p> <p>参加した小学生17名は、稚魚やエビなど、ちりめんに混じる小さなモンスター（チリメンモンスター：チリモン）を探し出し、図鑑と照らし合わせて生き物を特定しました。夏休みの自由研究でチリモンを探してみる、という子供たちもいました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.8.30
1351	水産研究部	<p>【豊後水道北部・南部海区漁業運営委員長、関係市水産主務課長との連絡会議を開催しました】 (2022. 8. 9発信)</p> <p>豊後水道北部海区(県漁協佐賀関～保戸島地区)漁業運営委員長、及び南部海区(同上浦～名護屋地区・旋網組合)と、関係市水産主務課長との連絡会議を、新型コロナウイルス感染症対策をしっかり講じて、対面で開催しました。</p> <p>当会議は関係者が一堂に会する数少ない会議であり、その中で当研究部からは業務概要の説明と調査研究成果の発表、質疑応答を行いました。さらに活発な意見交換も行うことができ、今後の水産業振興に向け、有意義な場となりました。</p>	 <p>豊後水道北部海区 連絡会</p> <p>豊後水道南部海区 連絡会</p>	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.8.30
1347	水産研究部	<p>【マガキの天然採苗を実施しました】 (2022. 8. 4発信)</p> <p>8月1日に佐伯市鶴見地先でマガキの種苗を確保するため、ケベル(プラスチック製の皿を重ねた構造の採苗器)と空きペットボトルを用いて、天然採苗を実施しました。</p> <p>既に地元の養殖業者が天然採苗を行い、稚ガキの付着を確認しており、また周辺には生殖巣の発達した親ガキが多数みられることから、今後の種苗の確保に期待が持てます。なお、採取した種苗は早期出荷のための大型化を目指し、中間育成技術開発を行う予定です。</p>	 <p>ケベル ペットボトル</p>	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.8.30
1346	水産研究部	<p>【今年も佐伯鶴城高校生に水産研究の魅力紹介！】 (2022. 8. 3発信)</p> <p>佐伯鶴城高校では、地域で働く人々の思いに触れ、職業観の育成や進路意識の向上を図ることを目的に、例年、1年生を対象に「地元産業魅力説明会」を開催しています。</p> <p>今年も佐伯の地元企業等(28団体)が参加した中で、当研究部もその使命と役割、水産研究の面白さについて、紹介させていただきました。この説明会がきっかけとなり、水産業に興味をもって、将来の進路候補になることを期待します。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.8.30
1345	水産研究部	<p>【かぼすヒラマサの食味試験を行いました！】 (2022. 8. 3発信)</p> <p>カボス生果皮ペーストを餌に混ぜてかぼすヒラマサを仕立てるには、これまでの試験結果から出荷までに体重1kgあたり15gのペーストを与えることが必要とされています。</p> <p>今回、基準値達成後、ペーストの割合を半分にして、20日後でも食味に変化がないか試験を行いました。ペーストを減らしても同様の食味を保つことができれば、かぼす資材の経費が削減でき、生産コストを抑えることができます。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.8.30
1343	水産研究部	<p>【「中層浮魚礁」に魚は集まるか？】 (2022. 8. 2発信)</p> <p>回遊魚などは漂流物に集まる習性があり、その習性を利用して、津久見市の保戸島地先に「浮魚礁」を設置しています。今回、浮魚礁周辺で釣獲調査を実施した結果、有用魚種のカサゴ、イトヨリダイ、タマガシラ等が漁獲され、魚礁の効果を確認することができました。冬はブリの来遊が期待できます。</p>	 <p>集魚イメージ</p>	水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2022.8.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1324	水産研究部および北部水産グループ	<p>【小中学生向けの海藻教室を開催】 (2022.7.8発信)</p> <p>県が開設している体験型子ども科学館0-Labo（オーラボ）で小中学生を対象に海藻教室を開催しました。</p> <p>海藻の生態や水産物としての利用について、また海環境保全のために海藻がとても大切なことなどをわかりやすく解説するとともに、海藻のサンプルに触れたり、トコロテン作りや海藻押し葉を活用した、しおりづくりなど実際に体験できる時間を多くとりました。</p> <p>海藻を通して海の生き物や環境に興味を持ってもらうきっかけになることを期待しています。</p>	 <p>上) 海藻に触れる参加者 下) 海藻押し葉のしおり</p>	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.7.30
1320	水産研究部	<p>【「岬ガザミ」養殖を応援しています！】 (2022.6.24発信)</p> <p>豊後高田市では、特産品「岬ガザミ」の養殖を始めるにあたって、同市役所ブランド推進係 担当職員が、餌作成の見学に来訪しました。</p> <p>併せて、給餌方法や飼育環境についても検討を行いました。「共食い」によって養殖数が減少したり、どんな餌を与えるかによってガザミ本来の「肉質・味覚」に影響したり、養殖の難しさがありますが、ブランドを守るための取組を応援していきます。</p>	 <p>造粒機による餌作成</p>	水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2022.7.30
1319	水産研究部	<p>【魚病及び赤潮担当者会議を開催しました】 (2022.6.24発信)</p> <p>魚類養殖にとって魚病や赤潮が多発する過酷な夏場を前に、県漁協関係支店、市役所水産主務課、県振興局担当者及び当研究部が参集し、昨年度の状況と、今年度の対策やモニタリング体制について再確認しました。</p> <p>魚病では薬剤耐性菌、新しい疾病に関する注意喚起、赤潮では監視調査・連絡体制の確認などがなされ、引き続き、関係者一丸となって被害防止に努めていきます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2022.7.30
1317	水産研究部	<p>【右胸びれをカットしたトラフグを放流しました！】 (2022.6.24発信)</p> <p>本県では瀬戸内・九州の関係府県と共同でトラフグの資源増大に向けた栽培漁業に取り組んでいます。放流効果を調べるため、6月21日に漁業公社と連携して全長約6cm、4.5千尾のトラフグの右胸びれをカットし、鶴見沖に放流しました。</p> <p>県下8地区の市場で追跡調査を行っていますが、右胸びれのないトラフグを捕獲した時には、水産研究部までご連絡をお願いします。</p>	 <p>右胸びれをカットする様子 行先風景</p>	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.7.30
1309	水産研究部	<p>【マグロ養殖場に有害赤潮監視のための水中カメラを設置】 (2022.6.14発信)</p> <p>水産研究部ではマグロ養殖場の赤潮被害軽減を図るため、有害赤潮監視システムの開発に取り組んでいます。これまでの魚群探知機による行動異常検出に加え、新たに遊泳行動を監視・記録できる高精度水中カメラを設置しました。従来の機器と連携することで、赤潮発生時のマグロの行動がより詳細に解明されることが期待されます。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2022.6.30
1307	水産研究部	<p>【瀬戸内海の水環境調査を実施中！】 (2022.6.7発信)</p> <p>瀬戸内海の水環境保全のため、県環境保全課が環境省の委託を受け、年4回、周防灘～伊予灘～豊後水道の15地点で、当研究部の調査船「豊洋」も協力して水質調査を実施しています。</p> <p>透明度や風向・風速等を観測するとともに、表層及び最大水深50mの深層から海水を採取しています。水質分析は県衛生環境研究センターで行っていますが、一部の水質項目(水温・溶存酸素)は船上で測定しています。これからも調査を継続し、データの蓄積を行っていきます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2022.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1301	水産研究部	<p>【オープンラボで魚のすり身製造研修を開催】 (2022. 5. 31発信)</p> <p>県内の加工業者を対象に当研究部の加工棟を公開して、すり身の製造研修を行いました。昨今のすり身原料の価格高騰や品質のばらつきを解決するため、持続的に入手しやすく、鮮度のよい地元で獲れたエソやイトヨリダイを原料としました。参加者との意見交換では、「磯焼け対策で駆除された魚についても利用したい」等の水産物加工におけるSDGsへの取組について話し合いを行いました。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2022.6.30
1299	水産研究部	<p>【新たなワクチン開発のため養殖ヒラメの感染実験を開始！】 (2022. 5. 30発信)</p> <p>当研究部では、養殖現場で問題となっているエドワジエラ症対策として、大学等と連携し新たなワクチン開発に取り組んでいます。試作ワクチンを接種したヒラメにエドワジエラ細菌を強制的に感染させ、その後の発症の有無により、有効性を検証します。効果が認められれば、病気による被害の低減を図ることができ、実用化が期待されます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2022.6.30
1294	水産研究部	<p>【養殖魚ワクチン講習会を開催！】 (2022. 5. 25発信)</p> <p>人間界と同様、魚類でも疾病予防には先手でのワクチン接種が有効です。今年もブリ等の養殖魚種苗導入時期を前に、養殖業者を対象に注射ワクチン講習会を開催しました。座学ではワクチンの仕組みを理解、実技では正しい接種方法を習得していただきました。この講習を通じて、ワクチンによる疾病対策が更に進むことを期待しています。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2022.6.30
1291	水産研究部	<p>【モジャコの不漁に備え、餌付け困難な小型モジャコの育成に取り組む！】 (2022. 5. 20発信)</p> <p>昨年、ブリの稚魚（モジャコ）が歴史的な不漁となりました。当研究部では採捕してきたモジャコをできるだけ種苗として養殖業者が利用できるようにするため、普段であれば使われないような小型モジャコでも育成できる餌付け方法の開発に取り組まはじめました。早急に技術を開発し、モジャコ採捕業者に対し、最適な育苗方法の普及を目指します。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2022.6.30
1283	水産研究部	<p>【モジャコの不漁に備え、ブリの人工種苗生産に取り組んでいます！】 (2022. 5. 9発信)</p> <p>昨年、ブリの稚魚（モジャコ）が歴史的な不漁となり、今年のブリの生産量は大きく落ち込む見通しです。当研究部ではモジャコ不漁時の種苗供給体制を整備するため、養殖魚を親とした人工種苗生産に取り組んでいます。養殖業者は安定した種苗の確保を求めており、成果が期待されます。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2022.5.31
1281	水産研究部	<p>【魚類養殖場で環境調査を実施中！】 (2022. 4. 28発信)</p> <p>当研究部では、県内魚類養殖場において良好な水質及び底質が保たれているかどうか調べるため、定期的な環境調査を行っています。4月21日に佐伯湾内のブリ・マグロ類養殖場の採泥調査を実施しました。得られたデータを解析し、現在の環境状況を評価することで、持続的な養殖漁場の保全に努めます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2022.5.31
1279	水産研究部	<p>【病気に強く、成長のよい養殖ヒラメの選抜育種を実施中！】 (2022. 4. 26発信)</p> <p>当研究部では、養殖現場で問題となっているエドワジエラ症に罹患しなかったヒラメや成長が著しく良かったヒラメを親魚とすることで、耐病性をもち、かつ成長の優れたヒラメの選抜育種に取り組んでいます。養殖業者からは歩留まりが良く、成長の早い種苗が求められており、成果が期待されています。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2022.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点 (合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限								
⑨北部水産グループ (計35件)		※R元4/25までの組織名: 浅海・内水面グループ												
1482	北部水産グループ	<p>【県内の内水面漁協が稚アユを放流】 (2023. 3. 14発信)</p> <p>県内の内水面漁協では、アユの増殖を目的に稚魚を放流します。北部水産グループでは放流の指導等を行っています。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">放流尾数 (サイズ)</td> </tr> <tr> <td>日田漁協</td> <td>3/10~ 100万尾 (6cm)</td> </tr> <tr> <td>大分川漁協</td> <td>3/22~ 25万尾 (7cm)</td> </tr> <tr> <td>大野川漁協</td> <td>3/22~ 30万尾 (10cm)</td> </tr> </table>	放流尾数 (サイズ)		日田漁協	3/10~ 100万尾 (6cm)	大分川漁協	3/22~ 25万尾 (7cm)	大野川漁協	3/22~ 30万尾 (10cm)	 <p>日田漁協の状況</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.3.31
放流尾数 (サイズ)														
日田漁協	3/10~ 100万尾 (6cm)													
大分川漁協	3/22~ 25万尾 (7cm)													
大野川漁協	3/22~ 30万尾 (10cm)													
1473	水産研究部 および 北部水産グループ	<p>【アユの遡上状況を調査中！】 (2023. 2. 24発信)</p> <p>アユは秋に川で産卵し、ふ化した稚魚は海に下って越冬し、春になったら川を遡上する魚です。水産研究部および北部水産グループでは、大分川、大野川、番匠川の3河川で遡上アユの状況を調査し、アユの遡上時期が昔と比較して遅くなっていないか？ふ化時期が遅れていないか？等を継続的に調査しています。</p> <p>今シーズンも2月に入り、大分川府内大橋下流、大野川舟本大橋上流、番匠川潮止堰堤付近で調査を開始し、2月21日（火）には番匠川で遡上アユを初確認しました。遡上状況から産卵時期を把握するなど、各河川とも5月下旬まで定期的に調査し、県内各河川漁協が取組んでいるアユ資源保護、増大などに役立てていただいています。</p>	 <p>大分川府内大橋下流</p>  <p>番匠川潮止堰堤付近</p>  <p>番匠川の遡上アユ</p>	水産研究部 資源増殖チーム 企画指導担当 北部水産グループ 養殖環境チーム	0972-32-2155 0978-22-2406	2023.3.31								
1461	北部水産グループ	<p>【山国川漁協 放流アユ中間育成 開始】 (2023. 2. 8発信)</p> <p>山国川漁協は3月中旬に河川放流するアユの中間育成を、本耶馬溪町東谷地区にある中間育成施設で1月19日から開始しました。 大分県漁業公社で生産された全長5cm (0.5g) の稚アユ2.7万尾を池入れしました。今年は15万尾を育成する予定です。当グループは中間育成の指導を行っています。</p>	 	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.2.28								
1452	北部水産グループ	<p>【鶴崎漁協のアオノリ増殖への技術支援！】 (2023. 1. 24発信)</p> <p>2000年頃まで大野川河口で漁獲されていたアオノリの復活を目指して、鶴崎漁協は本種の増殖に取り組んでいます。当グループは漁業者の要望に応じて、わずかに自生している区域での増殖に資するため、施肥剤設置の技術支援を行いました。なお、人工種苗による増殖にも取り組むため、種苗の育成を行っており、3月に漁場造成する予定です。</p>	 	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.2.28								
1447	北部水産グループ	<p>【人工種苗ヒジキの現地養殖試験開始！】 (2023. 1. 10発信)</p> <p>本県では、天然ヒジキをロープに挟み込む養殖が盛んに行われていますが、当グループでは、天然種苗に頼らない【人工種苗】の量産化に取り組んでいます。 今期生産した人工種苗2,215本（主枝長：1~18cm）をロープに挟み込み、宇佐市地先の干潟（9.4m）と国東市富来沖（12.7m）で現地養殖試験を開始しました。5月の収穫に向け、生長や生産性などを調査します。</p>	  <p>国東市富来地先における べた流し式の現地養殖試験</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.1.31								

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1444	北部水産グループ	<p>【日田漁協 放流アユ中間育成 開始】 (2023. 1. 5発信)</p> <p>日田漁協は3月中旬に河川放流するアユの中間育成を、大山地区にある施設で12月22日から開始しました。池入れた全長5.5cm (0.5g) の稚アユ19万尾は、大分県漁業公社で生産された種苗で、来年3月までに90万尾を育成する予定です。</p>	 	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.1.31
1441	北部水産グループ	<p>【大山ダム湖のワカサギ仔魚の餌料環境調査】 (2022. 12. 21発信)</p> <p>日田漁協では大山ダム湖のワカサギ資源の増殖に取り組んでおり、今年4月にはふ化仔魚放流も実施しました。来年1月にふ化仔魚放流を実施するにあたり、漁協はワカサギの餌が十分にあるのかを心配しており、当グループは、7月に続いて12月5日に動物プランクトンの調査を実施しました。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.1.31
1440	北部水産グループ	<p>【ノリの収穫はじまる】 (2022. 12. 21発信)</p> <p>中津市と宇佐市の地先で養殖されているノリの収穫が12月中旬から始まりました。ノリは平均14cmに生長（長いもので18cm）しており、病害もなく色も良好です。寒風の中、2月下旬まで作業が続く、本県周防灘地先の冬の風物詩です。</p>	 	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.1.31
1427	北部水産グループ	<p>【筋肉ひじき養殖はじまりました】 (2022. 12. 5発信)</p> <p>宇佐市長洲地先の干潟域で、全国的にもめずらしい支柱式のヒジキ養殖が始まりました。今年で4年目となる大分県漁協青年部宇佐支部の取組で、ロープに挟み込んだヒジキは、潮の満ち引きで大きく波にもまれてたくましく生長し、シャキシャキとした歯ごたえが特徴なことから『筋肉（マッスル）ひじき』と命名されています。当グループは養殖の技術支援を行っています。</p>	 <p>養殖ロープに挟み込まれたヒジキ</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.12.28
1426	北部水産グループ	<p>【佐賀関でカジメ藻場造成の準備】 (2022. 12. 5発信)</p> <p>本県で広く親しまれている海藻くらめ（正式名称：カジメ）の産地である佐賀関地区では、減少したカジメ資源の復活を目指して増殖活動に取り組んでいます。当グループは大分県漁協佐賀関支店の要望を受けて、葉長5cmまで育成した人工種苗カジメ2,100本を、自然素材の輪ゴムで建材ブロックに括着させる作業の技術支援を行いました。今回製作した種苗ブロックは、来年春頃に佐賀関地先に設置して藻場造成に役立てられます。</p>	  <p>一尺屋の陸上水槽での括着作業</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.12.28
1424	北部水産グループ	<p>【別府支店によるクロメ人工種苗の藻場造成】 (2022. 11. 28発信)</p> <p>藻場の復活を目指して、大分県漁協別府支店は11月22日に亀川地先2か所で藻場造成を行いました。葉長5~11cmに生長したクロメ人工種苗2,700本（育成393日目）が括着した建材ブロック27個を水深3mの海底に設置したので、当グループは技術支援を行いました。</p> <p>アイゴ等の魚介類による食害を防御するカゴに守られた人工種苗は、令和5年秋には遊走子を放出する母藻へと生長し、藻場群落の核になります。</p>	 <p>クロメが括着した建材ブロックを海底に設置</p>  <p>カゴに守られたクロメ人工種苗</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.12.28
1417	北部水産グループ	<p>【ヒジキ養殖はじまりました】 (2022. 11. 21発信)</p> <p>本県瀬戸内海沿海の4地区（宇佐、富来、国東、別府地先）で、天然ヒジキを挟み込んだ養殖が11月6日から順次始まり、4地区の養殖規模は、のべ6,700mです。収穫は来年の5月の予定で、当グループでは養殖指導を行っています。</p>	 <p>養殖ロープに挟み込まれたヒジキ</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.12.28

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1416	北部水産グループ	<p>【養殖ノリの生育順調】 (2022. 11. 21発信)</p> <p>中津市と宇佐市の地先で始まっている養殖ノリの生長は順調です。当グループでノリ網の芽つき状況を確認したところ、11月17日時点で葉体の色も回復し、葉長は平均2cm、最大で3cmでした。例年どおりであれば、初摘採は12月下旬の予定です。</p>	 <p>宇佐市地先の養殖ノリの生育状況</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.12.28
1414	北部水産グループ	<p>【貝毒被害を防止するためマガキ等の検査を実施中】 (2022. 11. 16発信)</p> <p>海水温が低下してきて、マガキが肉厚濃厚になってきました。本県瀬戸内海域には、マガキの産地（中津、国東、杵築、日出）が多数あります。安全・安心なマガキを出荷するために</p> <p>当グループでは、養殖場の海水プランクトン検査やマガキの安全性を判別する検査を行っています。なお、ムール貝養殖も行われているので、同様の検査を実施しています。</p>	 <p>杵築および日出産の養殖マガキ</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.12.28
1409	北部水産グループ	<p>【大野川にてアユの流下仔魚調査を実施！】 (2022. 11. 7発信)</p> <p>大野川のアユは10月中旬から産卵が始まっています。産卵後2~3週間でふ化が始まります。卵は夕方~夜間にふ化し、ふ化した仔アユは川を下って海に向かいます。当グループは白滝橋下流で17~24時の間、1時間毎にプランクトンネットを流して流下仔アユを採集しました。</p> <p>なお、本調査は12月下旬まで実施し、大野川でのアユの産卵・ふ化・流下仔魚の実態を把握します。</p>	 <p>プランクトンネットでアユ流下仔魚を採取中</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.11.30
1402	北部水産グループ	<p>【大分川にて、アユ産卵場調査を実施！】 (2022. 10. 27発信)</p> <p>大分川水系のアユは9月下旬~11月上旬（盛期：10月上~中旬）に産卵しています。また、産卵場所は2019年調査により明礪橋下流と田尻橋下流で確認されました。</p> <p>近年豪雨が多発し河川環境が変わっていると危惧する声を漁協から聞いたので、10月24日~11月7日に同じエリアで産卵場調査を実施します。</p>	 <p>田尻橋下流で確認した産着卵</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.11.30
1400	北部水産グループ	<p>【ノリの種付け 始まりました】 (2022. 10. 26発信)</p> <p>本県豊前海の冬の風物詩『ノリ養殖』が始まりました。宇佐市（2経営体）の地先でノリ網20枚を束ねて海面に張り、ノリの種（糸状体）が入り込んだカキ殻をぶら下げてノリ網に種付けする採苗作業が10月20、24日に行われました。また、中津市（4経営体）は10月23日に行われました。</p> <p>当グループでは、ノリ網の芽つきや育成状況を確認しており、初摘採は12月上旬の予定です。</p>	 <p>宇佐地先での作業風景</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.11.30
1399	北部水産グループ	<p>【遮光カゴ網を用いた外来魚捕獲試験を実施！】 (2022. 10. 26発信)</p> <p>大野川漁協が取り組んでいるブルーギル等の外来魚捕獲事業において、当グループは簡易かつ安価で効果的に捕獲できるカゴ網を提供し、その捕獲効果調査を10月19日~11月18日まで実施します。</p>	 <p>遮光カゴ網</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.11.30
1398	北部水産グループ	<p>【山国川にて、アユ産卵場調査を実施！】 (2022. 10. 26発信)</p> <p>山国川におけるアユの産卵環境や産卵状況を確認する調査を10月20日~11月9日に中津市恒久橋周辺と下宮永堰直下で実施します。昨年は恒久橋周辺で産着卵を確認しましたが、更に2.7km下流の下宮永での産卵状況等を調査します。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.11.30
1395	北部水産グループ	<p>【キジハタの標識付けを実施しました！】 (2022. 10. 19発信)</p> <p>キジハタの放流効果を調べるため、右腹ビレを抜き取る標識付けを行いました。標識を付けたキジハタ3,000尾は養生後、10月19日に姫島地先に放流します。定着性の強い魚なので漁獲サイズに育ち、姫島周辺での採捕が期待されます。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2022.11.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1389	北部水産グループ	<p>【大分初 人工種苗テングサの藻場造成】 (2022. 10. 4発信)</p> <p>かつて国東半島～県南蒲江の沿岸域に自生していたテングサは激減し、今では蒲江地区地先でしか漁獲されていません。そこで、当グループは漁業者の要望に応え、2021年からテングサの増殖に資する人工種苗の作出研究を行っています。</p> <p>9月29日にテングサ400本（葉長5cm）を活着させた建材ブロック20個を豊後高田市長崎島地先の水深3mに設置しました。これに先立ち、7月27日には佐伯市蒲江の屋形島地先でもテングサ400本（葉長3.5cm）を活着させた建材ブロック20個を設置しております。</p> <p>これらが母藻へと生長し、周辺に孢子が供給されてテングサが繁茂することを期待しております。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.10.30
1373	北部水産グループ	<p>【湯布院昭和館に『ドジョウの釣り堀』】 (2022. 9. 2発信)</p> <p>昭和レトロのテーマパーク湯布院昭和館に、ドジョウを釣って食べられる釣り堀カフェが登場しました。ドジョウは宇佐産の養殖ドジョウで、唐揚げで食べられます。当グループは飼育管理等で技術支援しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.9.30
1361	北部水産グループ	<p>【大分初 人工種苗クロメの大規模藻場造成】 (2022. 8. 24発信)</p> <p>藻場の再生を目指して、大分県漁協姫島支店が8月19日と22日に大規模な藻場造成に取り組みました。</p> <p>姫島産クロメ母藻から採苗し、葉長5～10cmに生長した人工種苗3,000本（育成298日目）を活着させた建材ブロック30個を姫島村地先3か所（水深5m）に設置したので、当グループは技術支援を行いました。</p> <p>ブダイ等の魚介類による食害を防止するカゴに守られた人工種苗は、令和5年秋には遊走子を放出する母藻へと生長し、藻場群落の形成を目指します。なお、残りの人工種苗7,000本は10月上旬に設置予定です。</p>	 <p>建材ブロックに活着したクロメ</p>  <p>海底に設置されたブロックとカゴ</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.9.30
1357	北部水産グループ	<p>【大野川における付着藻類調査】 (2022. 8. 18発信)</p> <p>アユは、餌場となる河川の石を独占するかのよう「なわばり」を形成し、石に付着している藻類をガツガツ食べる草食（藻食）系の魚です。そして、その藻類の種類と量が成長に関係するので、大野川漁協から『アユの餌は足りているのか?』との要請に応え、7～10月に大野川水系の緒方、清川、千歳、大飼地区で餌環境を評価する際に指標となる付着藻類の種類と有機物量（強熱減量）を調査しています。</p>	  <p>糸状藍藻類の顕微鏡写真</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.9.30
1329	北部水産グループ	<p>【日田市内の河川におけるアユ生息状況調査】 (2022. 7. 14発信)</p> <p>日田市内水面利活用推進協議会（日田漁協、日田市、国交省筑後川河川事務所など）は、7月12～13日に日田市内の三隈川、大山川など13か所でアユの生息状況等に関するフィールド調査を実施したので、当グループも協力しました。各河川ともアユが藻類を食べた痕跡（ハミアト）を多く確認し、元氣よく泳いでいるアユも多数視認しました。</p>	 	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.7.30
1325	北部水産グループ	<p>【人工種苗クロメの藻場造成準備】 (2022. 7. 14発信)</p> <p>アワビ、サザエ等の餌となり、魚類の産卵や稚魚の成育の場としても重要な藻場が、近年、姫島周辺で魚類の食害により減少していると漁業者が危惧。</p> <p>大分県漁協姫島支店は、藻場の回復を目指して人工種苗クロメを用いた大規模な藻場造成を行います。それに先立ち潜水漁業者らが、人工種苗1万本を建材ブロック100個に活着させる作業を7月9日に行ったので、当グループは技術支援を行いました。</p> <p>人工種苗は令和3年10月に姫島産母藻から採苗し、葉長5～10cmに生長したものです（育成216日目）。3週間程度でブロックに活着するので、その後、姫島周辺の10か所（水深3～5m）に設置します。</p>	  	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.7.30

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限										
1316	北部水産グループ	<p>【人工種苗ヒジキの生産を開始】 (2022. 6. 24発信)</p> <p>本県沿海3地区で採取したヒジキ母藻を用いた種苗生産を5月24日～6月10日に実施しました。</p> <p>18回の採卵で1,769万粒(昨年は1,561万粒)の受精卵をビニロン製ロープ、ポリエステル製不織布等に播種。生長した人工種苗223万本(葉長0.9～1.6mm)が活着した各基質を6月16日から順次、漁港内等での海面育苗に移行させています。</p> <p>11月には養殖ロープ400m相当(昨年度:11.9m)にあたる種苗数の確保を目指します。</p>	 <p>ロープに活着したヒジキ種苗</p>  <p>漁港内での海面育苗</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.7.30										
1314	北部水産グループ	<p>【山国川のアユ資源を増大させる方策を提言！】 (2022. 6. 22発信)</p> <p>当グループは2021年度に実施した山国川水系での調査結果を山国川漁協に報告し、アユ資源を維持増大させる方策を提案しました。調査結果を反映すべく、漁協内部で検討されることになりました。</p> <p>提案内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユの産卵時期と産卵場 ・漁獲アユの由来判定 ・アユつり漁場診断結果 	 <p>全長206mm 225日齢</p> <p>全長181mm 217日齢</p>  <p>2021年6月に下郷で漁獲されたアユと抽出した耳石</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.7.30										
1296	北部水産グループ	<p>【赤潮・貝毒調査 実施中！】 (2022. 5. 27発信)</p> <p>今年度も、5月から毎月3回、本県瀬戸内海域の16地点(貝毒5地点)において、海中の植物プランクトンの出現をモニタリングしています。なお、昨年度も本県瀬戸内海域において赤潮による漁業被害は発生しておりません。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.6.30										
1287	北部水産グループ	<p>【色落ちした養殖ノリが回復に必要な栄養塩濃度】 (2022. 5. 13発信)</p> <p>ノリ色落ちの回復に必要な栄養塩濃度を推定する室内実験を行いました。摘採時期(12月)の中津地先の溶存無機態窒素(DIN)濃度2.5μMや、その2.8倍の7μMの海水を色落ちしたノリに10日間掛け流しした結果、DIN濃度が高いほど色落ちの回復が早いことが確かめられました。</p> <p>今後は、摘採期のノリと現場海水を用いて詳細な回復試験を実施し、養殖ノリの栄養塩添加技術を開発します。</p>	 <p>4月4日(7日目)</p>  <p>2.5μM 5μM 7μM</p> 	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.5.31										
1285	北部水産グループ	<p>【養殖ヒジキの収穫 始まりました】 (2022. 5. 11発信)</p> <p>県内各地先で養殖されているヒジキの収穫が始まりました。当グループは収穫状況調査を行っています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>養殖地区</th> <th>収穫予定日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宇佐支店</td> <td>5月 6日</td> </tr> <tr> <td>くにさき支店</td> <td>5月中～下旬</td> </tr> <tr> <td>武蔵支店</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>別府支店</td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table>	養殖地区	収穫予定日	宇佐支店	5月 6日	くにさき支店	5月中～下旬	武蔵支店	同上	別府支店	同上	  <p>宇佐市長洲地先の干潟で養殖されたヒジキ</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.5.31
養殖地区	収穫予定日															
宇佐支店	5月 6日															
くにさき支店	5月中～下旬															
武蔵支店	同上															
別府支店	同上															
1278	北部水産グループ	<p>【県内初 大山ダム湖にワカサギふ化仔魚放流！】 (2022. 4. 26発信)</p> <p>日田漁協では、ダム湖のワカサギ資源を増大させ、コロナ禍の秋～春の遊漁者の増加を目指して、今年初めて大山ダム湖にワカサギのふ化仔魚を放流しました。</p> <p>4月10日に大山ダム湖で親魚を捕獲、水槽内で自然産卵させた受精卵を回収、その卵をふ化器に収容し10日間管理してふ化させ、その仔魚を4月21日に大山ダム湖に放流しました。当グループは、技術支援を行いました。</p>	 	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.5.31										

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限																		
1270	北部水産グループ	<p>【陸封アユ移植放流】 (2022. 4. 8発信)</p> <p>山国川漁協は、耶馬溪ダム湖の流入河川である山移川（竹の弦橋～大平橋の間）でアユを採捕し、下流の山国川水系に移植放流する作業を4月3日から実施しています。天然資源の有効活用とアユの増殖を目的に、ダム湖で一生涯を終えるアユを採捕してダムの下流に放流しています。 当グループは採捕・放流に助言・協力しています。</p>	 <p>作業状況</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.4.30																		
1269	北部水産グループ	<p>【ヒジキ漁が始まりました！】 (2022. 4. 8発信)</p> <p>国東半島～別府湾沿海の大分県漁協各支店では、天然ヒジキの採取が始まりました。当グループはヒジキ増殖の取組に協力しています。</p> <p>採取期間</p> <table border="0"> <tr> <td>香々地支店</td> <td>4月14日～5月7日</td> </tr> <tr> <td>国見支店</td> <td>4月14日～5月5日</td> </tr> <tr> <td>姫島支店</td> <td>4月17～19日、4月29日～5月1日</td> </tr> <tr> <td>くにさき支店</td> <td>4月14日～5月5日</td> </tr> <tr> <td>武蔵支店</td> <td>4月14日～5月7日</td> </tr> <tr> <td>安岐支店</td> <td>4月14日～5月7日</td> </tr> <tr> <td>杵築支店</td> <td>3月 1日～ 未定</td> </tr> <tr> <td>日出支店</td> <td>4月 1日～5月15日</td> </tr> <tr> <td>別府支店</td> <td>4月 1日～6月30日</td> </tr> </table>	香々地支店	4月14日～5月7日	国見支店	4月14日～5月5日	姫島支店	4月17～19日、4月29日～5月1日	くにさき支店	4月14日～5月5日	武蔵支店	4月14日～5月7日	安岐支店	4月14日～5月7日	杵築支店	3月 1日～ 未定	日出支店	4月 1日～5月15日	別府支店	4月 1日～6月30日	  <p>昨年の漁模様と天日干しヒジキ</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2406	2022.4.30
香々地支店	4月14日～5月7日																							
国見支店	4月14日～5月5日																							
姫島支店	4月17～19日、4月29日～5月1日																							
くにさき支店	4月14日～5月5日																							
武蔵支店	4月14日～5月7日																							
安岐支店	4月14日～5月7日																							
杵築支店	3月 1日～ 未定																							
日出支店	4月 1日～5月15日																							
別府支店	4月 1日～6月30日																							
1268	北部水産グループ	<p>【内水面漁協が稚アユを放流しています！】 (2022. 4. 8発信)</p> <p>当グループ管内の内水面漁協では、アユの増殖を目的にアユの稚魚を放流しています。</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>放流尾数 (サイズ)</td> </tr> <tr> <td>山国川漁協</td> <td>4/10以降 未定</td> </tr> <tr> <td>駅館川漁協</td> <td>4/12～ 5万尾 (7cm)</td> </tr> <tr> <td>宇佐山郷淡水漁協</td> <td>未定</td> </tr> <tr> <td>玖珠郡漁協</td> <td>3/25～ 0.8万尾 (6cm)</td> </tr> <tr> <td>津江漁協</td> <td>4月上旬 4.4万尾 (5cm)</td> </tr> <tr> <td>鶴崎漁協</td> <td>4/8～ 0.4万尾 (8cm)</td> </tr> <tr> <td>臼杵河川</td> <td>未定</td> </tr> </table>		放流尾数 (サイズ)	山国川漁協	4/10以降 未定	駅館川漁協	4/12～ 5万尾 (7cm)	宇佐山郷淡水漁協	未定	玖珠郡漁協	3/25～ 0.8万尾 (6cm)	津江漁協	4月上旬 4.4万尾 (5cm)	鶴崎漁協	4/8～ 0.4万尾 (8cm)	臼杵河川	未定	  <p>昨年の放流状況</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2022.4.30		
	放流尾数 (サイズ)																							
山国川漁協	4/10以降 未定																							
駅館川漁協	4/12～ 5万尾 (7cm)																							
宇佐山郷淡水漁協	未定																							
玖珠郡漁協	3/25～ 0.8万尾 (6cm)																							
津江漁協	4月上旬 4.4万尾 (5cm)																							
鶴崎漁協	4/8～ 0.4万尾 (8cm)																							
臼杵河川	未定																							

農林水産研究タイムリー情報

2023年5月9日時点

(合計228件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
------	-----	------	-------	------	------	------

⑩農林水産研究指導センター(計3件)

1490	センター本部	<p>【研究員の資質向上に向けたセミナーを開催！】 (2023. 3. 29発信)</p> <p>当センターでは、最新の科学知見等に関する講義及び情報交換など、研究員の資質向上に向けたセミナーを定期的に開催しています。</p> <p>今回は3月17日に、長期にわたる研修報告として、遺伝子解析手法習得による大豆褐斑粒(かっぱんりゅう)原因ウイルスの同定に関する報告やAI等のデータ解析手法習得による画像認識を用いた生育診断技術の開発に関する報告、また、日下の城下カレイとしても知られているマコガレイの生態研究での学位取得報告など、幅広い内容でセミナーを開催しました。農業分野に関することが中心になりましたが、農業分野だけでなく、他分野からの参加もあり活発な議論が行われました。</p> <p>今後も生産現場からの研究ニーズを的確に把握し、速やかに成果を普及できるような有意義なセミナーを開催していきます。</p>	 <p>セミナーの様子</p>  <p>研究課題(果樹)</p>  <p>空撮画像からの生育診断の例(果樹)</p>	センター本部 研究企画担当	0974-28-2074	2023.4.30
1377	センター本部 果樹グループ	<p>【大分県スマート農林水産業イノベーション創出プラットフォーム会議】 (2022. 9. 9発信)</p> <p>少子化や人口減少等が進む近年、持続可能な農林水産業の実現に向け、ロボット技術やICT等の先端技術を活用したスマート農林水産業の推進が急務となっています。</p> <p>当センターでは、大分大学、大分高専、関係企業とともに大分県スマート農林水産業イノベーション創出プラットフォームを設立し、生産現場での活用を見据えた技術開発、新規事業の創出を具現化するための第1回目の会議を9月6日(火)に開催しました。</p> <p>園芸品目を中心に、今後省力化が必要となる管理作業の抽出を行うとともに、今回は、落葉果樹の機械化に向け、果樹グループ内のナシ園、ブドウ園、キウイフルーツ園の栽培状況を確認しながら、受粉、袋掛け、熟度判定、収穫等の機械化の可能性について協議しました。意見交換では農業の視点からは異なる意見や情報提供があり、次回以降の生産現場での協議等を重ねながら事業化を目指します。</p>	 <p>会議の様子</p>  <p>ほ場視察の様子</p>	センター本部 研究企画担当	0974-28-2074	2022.9.30
1321	センター本部	<p>【大分県スマート農林水産業イノベーション創出プラットフォームを設立！】 (2022. 7. 1発信)</p> <p>近年、少子化や人口減少等が進む中、持続可能な農林水産業の実現に向け、ロボット技術やICT等の先端技術を活用したスマート農林水産業の推進が急務となっています。</p> <p>当センターでは、6月29日に、大分大学、大分高専、関係企業様とともに「標記プラットフォーム」を設立し、産学官連携によるスマート農林水産業の推進を強化していくこととしました。今後は、生産の省力化、効率化と製品の高品質化を実現するため、生産現場での導入を見据えた技術開発、新規事業の創出を目標に行動します。</p>		センター本部 研究企画担当	0974-28-2074	2022.7.30